平成 29 年度障害者生活実態調査を踏まえた

障害者の暮らしに関する課題検討報告書

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課

はじめに

障害のある人を取り巻く生活環境は大きく変化しています。

ノーマライゼーションの理念が広く浸透しており、住み慣れた地域で暮らし続けることが望ましいと誰しもが考える一方で、現実には、地域に暮らす障害のある人にとって親の高齢化による支援機能の低下や親亡き後、又本人の高齢化等を要因として本人が希望する暮らしや自律した生活の実現を阻害する一因になっていることは否定できません。

そのため、県では県内に居住する障害のある人のうち、今回、療育手帳をもつ在宅の方を対象に、住まい、日常生活と社会参加（地域との関わり）、医療・福祉サービスの利用、将来の不安・理想（親の加齢・親亡き後）といった限られた対象者、視点とはなりますが日々の暮らしから思うこと、感じること、或いは課題や将来の不安といった意見を市町の障害福祉担当課の協力のもと調査（障害者生活実態調査）し、現在から将来への障害のある人が抱える課題を明らかにするとともに、調査結果をもとにして今後取り組むべき方向性を検討する場（学識者、団体関係者、サービス従事者等で構成する「障害者の暮らし検討委員会」）を設置しました。

検討委員会では、生活実態調査の調査視点に沿って制度上の課題や現在の障害のある人に対する支援策に欠落している点等、多様な意見が表出されました。「住まい」については、在宅生活の継続には今後、多様な住まいのあり方の検討が必要であること、「日常生活と社会参加（地域との関わり）」については、地域社会とのつながりを保つための手段として相談支援体制の充実等が重要である、「医療・福祉サービスの利用」では、障害福祉サービスの質の向上や高齢障害者の介護保険サービスの併用に当たっては本人の生活の質を確保し、切れ目のない支援が必要であること等々、今後、県として向かうべき取組みの方向性が示されました。

この度その内容を報告書として取りまとめを行い、今後の国への要望活動、県施策への反映に向けて活用することとしています。

平成 30 年３月

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課

目　　次

Ⅰ　障害者の暮らしに関する課題と対応の方向性

論点１　住まい …… **4**
論点２　日常生活・社会参加（地域との関わり） …… **7**
論点３　医療・福祉サービスの利用 …… **10**
論点４　将来の不安・理想（親の加齢・親亡き後） …… **13**

Ⅱ　障害者生活実態調査

○　調査の視点、調査対象者等 …… **16**
○　調査票の回答状況 …… **17**
地域別回答数、男女別回答数
1　障害者の属性 …… **18**
調査票記載者、調査票記載者の年齢、障害者手帳の状況
2　住まい …… **20**
現在の住まい・同居家族、将来暮らしたい場所、必要な支援
現在の住居に住み続けることの課題
3　日常生活・社会参加（地域との関わり） …… **28**
平日（日中）の居場所、今の生活状況（経済的側面）、世帯の主な収入源、
今の生活の満足度、今の暮らし（自立度）、自立した暮らしの感じ方、
日常の楽しみ・生きがい、介助の状況と主な介助者、困ったときの相談相手、
友達・近隣とのつきあい、１週間の外出頻度と外出に際しての課題
4　医療・福祉サービスの利用 …… **39**
障害支援区分の認定と利用するサービス、サービスの満足度と利用に際しての課題
医療機関の受診、介護保険サービスの利用と要介護等認定
5　将来の不安・理想（親の加齢・親亡き後） …… **45**
将来に対する不安（障害者本人）、介護に関する相談相手（障害者本人）、
将来の生活（障害者本人）、介護サービスの利用による生活の変化（介護者）、
介護をする上での現在の悩み（介護者）、将来の不安

〔参考〕障害者の暮らしに関する調査（障害者生活実態調査）調査票 …… **56**

Ⅲ　障害者の暮らし検討委員会 …… **79**

Ⅰ　障害者の暮らしに関する課題と対応の方向性

＜論点１　障害者の住まい＞

１　調査結果の概要

（現在の住まい・同居家族）

○　家族の持ち家に居住する者は 337 人中 203 人(60.2%)で最も多く、次いで自分の持ち家に居住する者 42 人(12.5%)の順になっている。

○　同居家族の状況では、単身生活者が 34 人(10.9%)、同居家族等のある者が 278 人(89.1%)で、同居家族のある者のうち、親のみと同居する者の割合は約半数（154 人(55.3%)）となっている。

（将来暮らしたい場所）

○　現在住んでいる住居の形態を問わず、「今住んでいるところに引き続き住みたい」と希望する者の割合が高く(65.9%)、次いでグループホーム(14.8%)、障害者施設(10.3%)の順になっている。

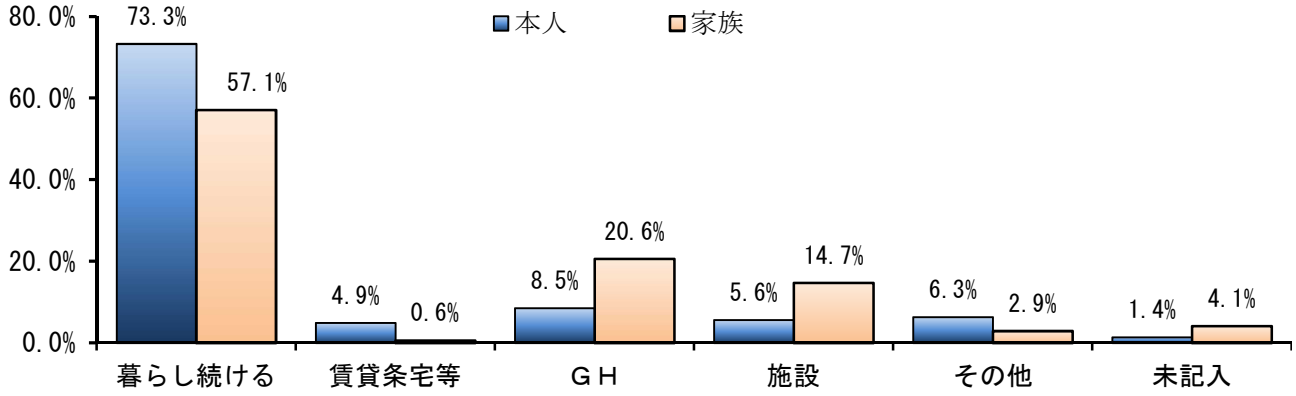
○　記載者別では、「今住んでいるところに引き続き住みたい」と回答したのは家族よりも本人の割合が高く、逆にグループホーム、施設と回答した者は本人よりも家族の方が高い割合を示している。また、本人の年齢別では、どの区分においても「今住んでいるところに引き続き住みたい」とした者が高い割合を示しているが、グループホーム・施設についても一定の希望がある。

【全体】　（単位：人）

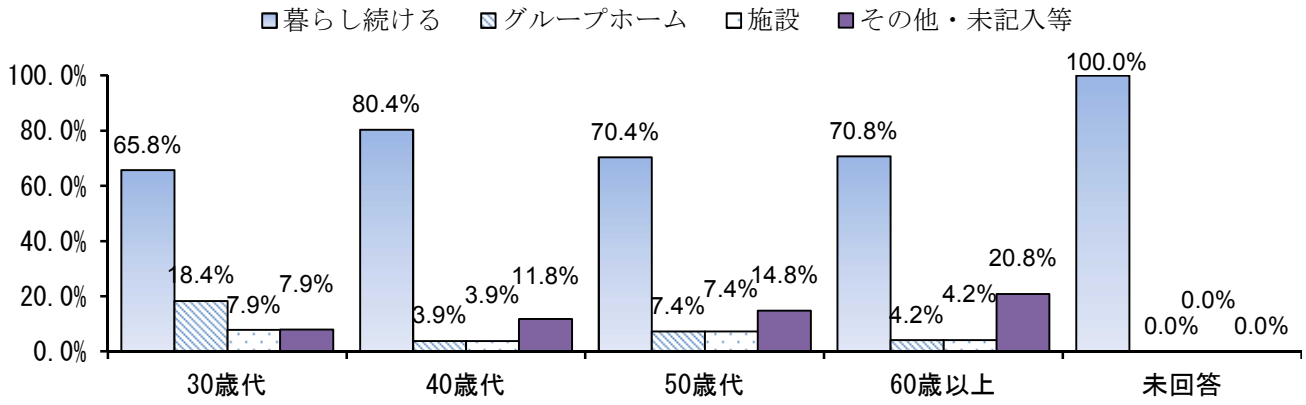
区分	今住んでいるところ	今住んでいるところを出て賃貸住宅等	グループホーム	障害者施設	その他	未回答	計
自分の持ち家	27 (8.7%)	1 (0.3%)	6 (1.9%)	5 (1.6%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)	42 (13.4%)
家族の持ち家	134 (43.0%)	5 (1.6%)	30 (9.7%)	22 (7.1%)	5 (1.6%)	7 (2.2%)	203 (65.2%)
借家・民間賃貸住宅	18 (5.8%)	2 (0.6%)	6 (1.9%)	4 (1.3%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	32 (10.2%)
社宅・職員寮・寄宿舎等	3 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	6 (1.9%)
公営住宅	23 (7.4%)	0 (0.0%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)	29 (9.3%)
計	205 (65.9%)	8 (2.5%)	46 (14.8%)	32 (10.3%)	12 (3.7%)	9 (2.8%)	312 (100.0%)

※その他の内容：「わからない」、「シェアハウス」等

将来暮らしたい場所（記載者:本人・家族別）



将来暮らしたい場所（記載者：本人・年代別）

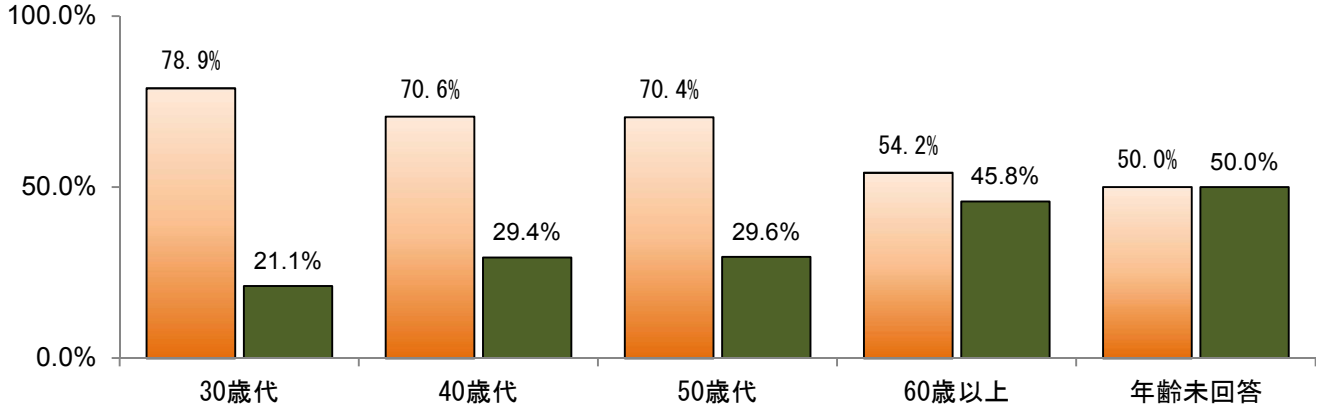


(現在の住居に住み続けることの課題)

○　現在住んでいる住居について、構造上の課題では、「特に困っていることはない」と回答した者が多いものの、年齢が上昇するにつれて「課題有」の割合が高まっている。

　人間関係での課題では、「将来、親の高齢化などによって自力で生活することに不安がある」と回答した者が多い。

現在の住居に住み続けることの構造上の課題（年代別）



２　課題と対応の方向性

障害者本人の意向として住み慣れた住まいで継続した生活を希望しているが、同居する親の高齢化やそれに伴う介護力の低下等により、在宅生活を継続することへの危惧がある。

一方、本人・親ともにグループホーム等を希望する者も一定あり、これらのニーズも踏まえ多様な住まいのあり方を検討していく必要がある。

ア　住み慣れた住まいでの生活が継続できるよう福祉的支援の充実

○　第５期障害福祉推進計画（H30 年度～H32 年度）に基づき、親亡き後等を見据えた在宅サービスの着実な充実を図っていく。特に親の安心・安全が確保され、本人の希望する住まいに住み続けるには 24 時間の切れ目のない支援が確保されることが重要で、例えば平成 30 年度から始まる自立生活援助（定期･随時の見守り支援）の普及に加え、直接介護を行う訪問系サービスとの一体的な提供の仕組みづくりといった検討を進めることが必要である。【下記参照】

○　高齢化が進むことに伴い喀痰吸引等の医療的ニーズの必要性が高まることを踏まえ、在宅生活における障害福祉サービス・医療的ケアのトータルな提供体制の構築についての検討が今後求められる。なお、住み慣れた住まいに生涯住み続けるための支援策は、障害のあるなしに関わらず福祉・医療サービスの範囲で完結されるものではないことに留意しなければならない。

地域生活を支援する新たなサービス（自立生活援助）の創設

○ 障害者が安心して地域で生活することができるよう、グループホーム等地域生活を支援する仕組みの見直しが求められているが、集団生活ではなく賃貸住宅等における一人暮らしを希望する障害者の中には、知的障害や精神障害により理解力や生活力等が十分ではないために一人暮らしを選択できない者がいる。

○ このため、障害者支援施設やグループホーム等から一人暮らしへの移行を希望する知的障害者や精神障害者などについて、本人の意思を尊重した地域生活を支援するため、一定の期間にわたり、定期的な巡回訪問や随時の対応により、障害者の理解力、生活力等を補う観点から、適時のタイミングで適切な支援を行うサービスを新たに創設する（「自立生活援助」）。

対象者

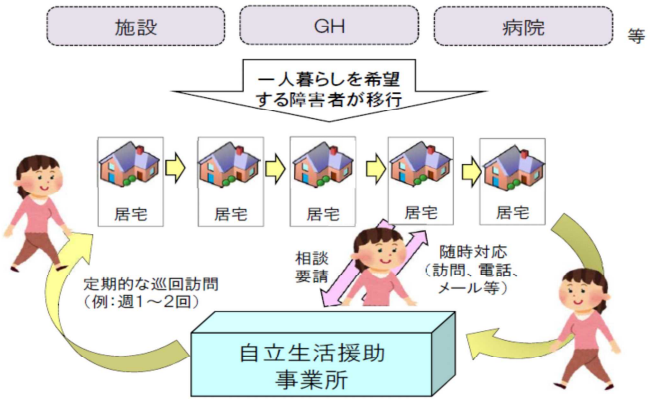
○ 障害者支援施設やグループホーム等を利用していた障害者で一人暮らしを希望する者等

支援内容

○ 定期的に利用者の居宅を訪問し、
- 食事、洗濯、掃除などに課題はないか
- 公共料金や家賃に滞納はないか
- 体調に変化はないか、通院しているか
- 地域住民との関係は良好か

などについて確認を行い、必要な助言や医療機関等との連絡調整を行う。

○ 定期的な訪問だけではなく、利用者からの相談･要請があった際は、訪問、電話、メール等による随時の対応も行う。



（厚生労働省資料）

イ　多様な住まい方が選択できる基盤の整備

○　住み慣れた住宅で暮らし続けること以外にも、障害者本人の状態とニーズに応じた柔軟な選択が可能となるような住まいの場の確保が必要である。そのためには専門性に合わせて利用が可能なグループホームや重度者に対応できるような体制を整えたグループホームの設置等に向けた検討や一人暮らし等の新たな生活の場にチャレンジする機会の確保も必要となる。加えて、これらの取り組みを進めるにあたり、同時並行して、障害者本人の状態や希望を的確につかみ、適切な住まいの場へつなげていくための相談支援専門員の力量を高めることも求められる。

○　障害者入所施設やグループホームで暮らしても将来の高齢化よる心身機能の低下を見据え、日々の生活において高齢特性を踏まえた医療的ケアの実施や看取りといった支援が受けられるような体制を整備する必要がある。一方、高齢化に伴い心身機能が低下した者が特別養護老人ホームに入所しても本人の状態を踏まえて適切な支援がなされるよう、障害特性を理解した職員の配置が必要である。

○　高齢化も含め様々な要因から、長年住み慣れた住居での暮らしから障害者入所施設やグループホーム等への生活に移行した場合、環境の激変がもたらす生活力や心身機能の変化（低下）を回避できるような支援が求められる。

＜論点２　日常生活・社会参加（地域との関わり）＞

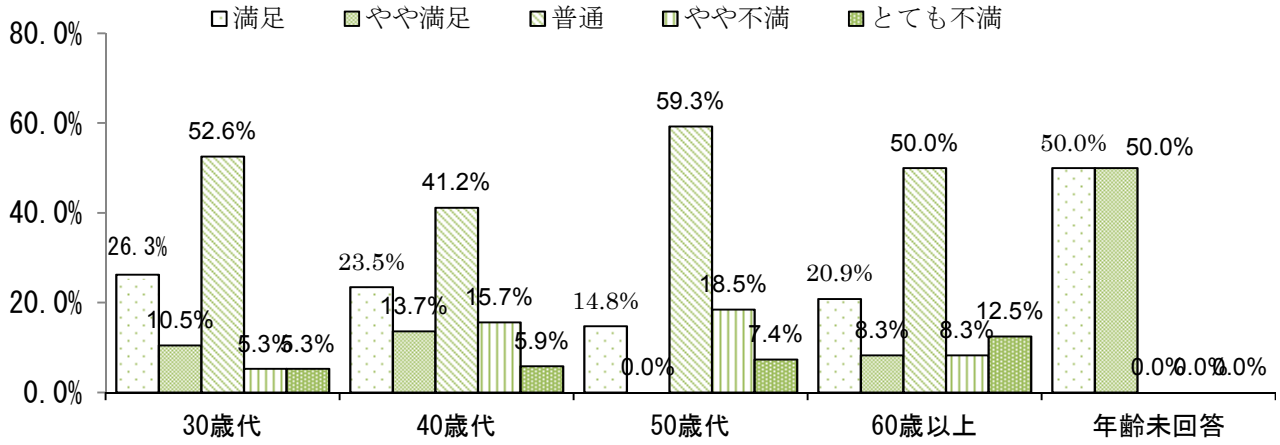
１　調査結果の概要

（今の生活の満足度）

○　「普通」が最も多く（49.9%）、「満足している」・「やや満足している」(29.4%)が、「やや不満がある」・「とても不満がある」(18.6%)を上回っている。

○　記載者本人の年代別状況はどの年代においても「普通」と回答した者の割合が高いものの「やや不満」、「とても不満」と回答した者も各年代に一定数あり、世代間の顕著な傾向はない。「やや不満」、「とても不満」と回答した主な理由として移動・外出時の不便さをあげる者が多い。

今の生活の満足度（記載者本人・年代別）



（移動・外出時の不便さ）
○段差や障害物があり歩きにくく、車や自転車が多くて危ない
○信号の間隔が短く、車や自転車が危ない
○物が言えないので、外出先で困った時に人に助けを求めることができない。
○お金の計算ができない。地図がよく理解できない。時間をパッと読み取れない。
○常に親と一緒。外出支援の時間はもらっているが、ヘルパー不足で活用できない。
○身障者用トイレが少なかったり、独立していない。
○親が高齢なので連れて行ってもらえない。

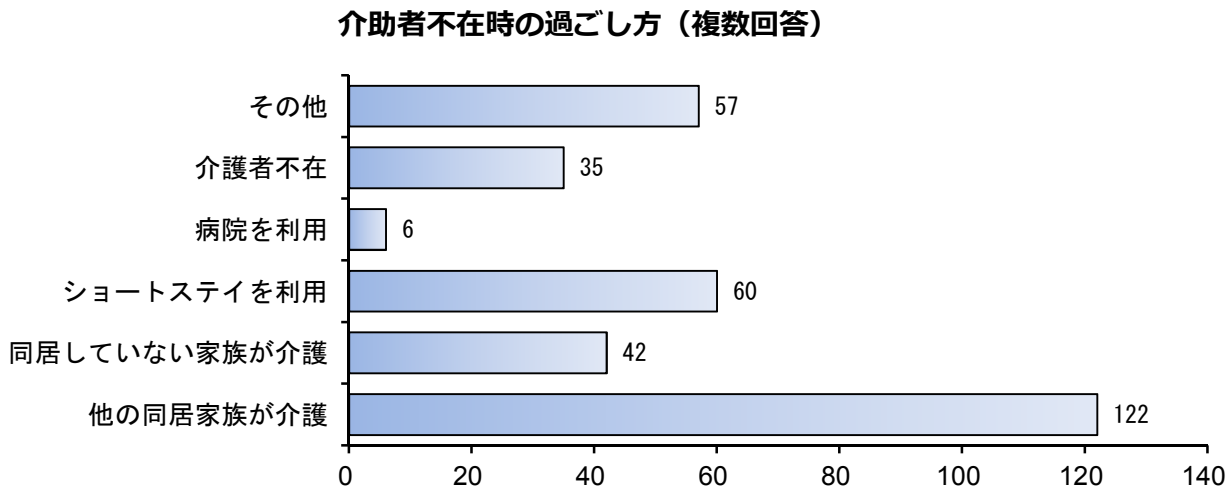
（日常の楽しみ・生きがい）

○　「食事をすること」、「テレビをみること」、「通所施設や作業所などで仕事や作業をすること」、「買い物をすること」が高い割合を示している。

（介助の状況と主な介助者）

○　介護の状況では、「一部介助や支援が必要」・「全部介助や支援が必要」が 80.1%で、介助が必要と回答した者の主な介助者は母親（一部介助：56.1%、全部介助：80.6%）が最も多い。

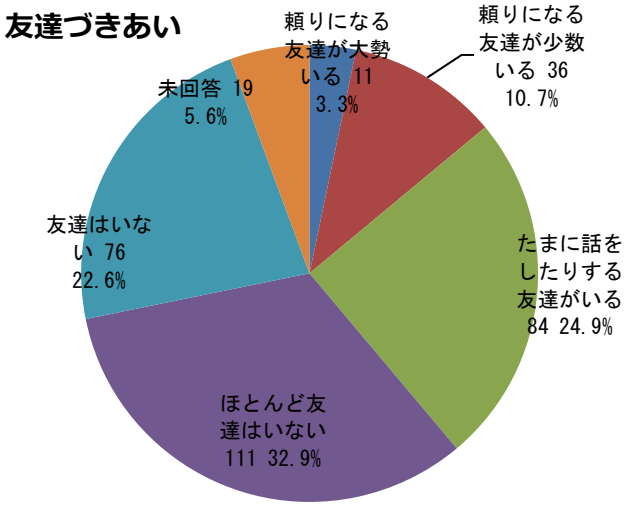
○　主な介助者の年齢は 60 歳以上が 65%で、介助者不在時の過ごし方は、「他の同居家族が介助することが多い」と回答した者が最も多く、次いで「ショートステイを利用することが多い」、「同居していない家族が介助することが多い」となる一方、介助する者が不在となる者もある。

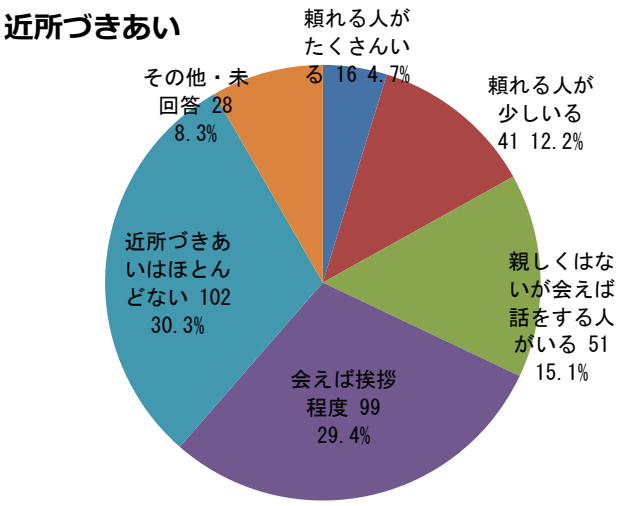


（友達・近隣とのつきあい）

○　「ほとんど友達はいない」と回答した者が 32.9%で最も多く、次いで「たまに話をしたり遊んだりする友達がいる」が 24.9%。「友達がいない」と回答した者は 22.6%。

○　近隣とのつきあいに関して、「近所づきあいをほとんどしていない」（30.3%）、「会えば挨拶をする程度である」（29.4%）で全体の半数以上を占めている。





２　課題と対応の方向性

平素から地域との関わりが希薄化している中、本人・親の心身機能の低下等が社会とのつながりや地域生活の困難さに拍車をかける危惧がある。そのため、社会への参加や移動に対する支援の充実、日常生活に必要な情報の入手手段の確保、日常の心配ごとなどを身近に相談できる仕組みづくり等が必要である。

ア　社会参加を促進するための支援の充実

○　第５期障害福祉計画に基づき、社会参加の手段として移動支援サービスの充実と専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成と派遣に取り組む。

イ　地域における相談支援体制等の基盤整備

○　障害者の地域生活が継続されるよう、ソーシャルワークの担い手として、またインフォーマルサービスを含めた社会資源の改善・開発、地域のつながり等の支援を担う相談支援専門員の資質向上を図ることが必要である。

特に相談支援専門員の養成研修等の機会では、トータルで障害者の地域生活を支えるという視点で､障害福祉サービスの適切な組み合わせ(サービス等利用計画の作成)はもちろん、インフォーマルサービスを十分意識し、地域を知り必要な社会資源を活用するといった相談支援が行えるよう今以上に研修内容を充実していくべきである。

○　地域での相談支援体制の強化や総合的・専門的な相談等を実施する基幹相談支援センターの設置推進に努める（県内設置数：15 市・設置率：36.6%（H30.1.4 現在）〔全国 H29.4.1 現在 30%〕）とともに、障害者の高齢化や親亡き後等を見据え、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築を目的とした地域生活支援拠点の設置推進に努める（県内設置数：4 市 1 町（H30.1.4 現在））。

＜論点３　医療・福祉サービスの利用＞

１　調査結果の概要

（サービスの満足度と利用に際しての要望）

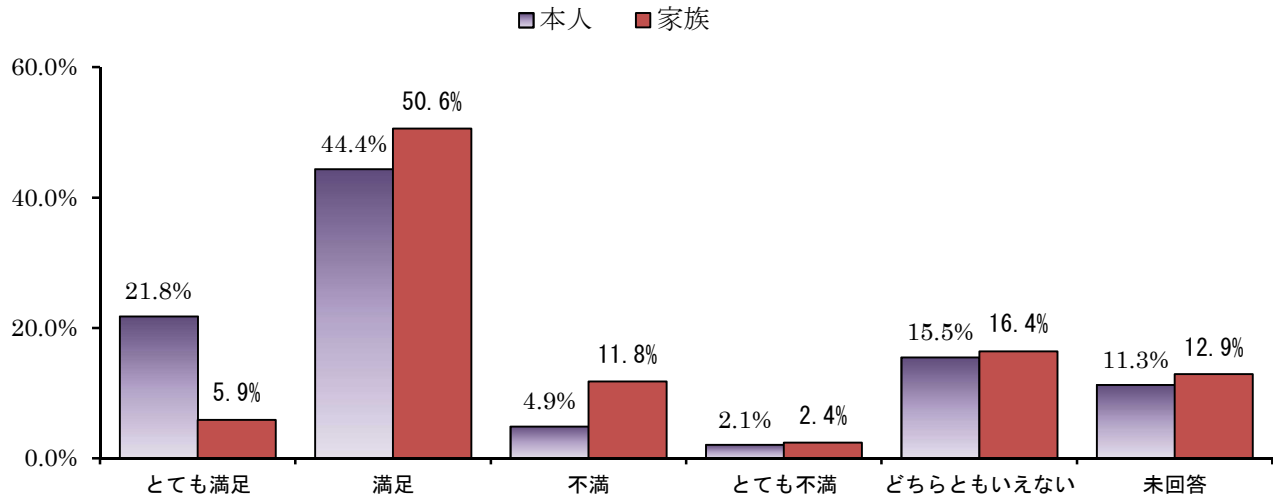
○　障害福祉サービスの利用について、「とても満足している」(13.1%)・「満足している」(48.7%)と回答した者は全体の半数以上。サービスの利用に際しての要望として、「障害の特性や年齢に合ったきめ細かいサービスの種類を増やす」、「ヘルパーや事業所職員の障害に対する理解や介護技術の向上」、「緊急時の対応や連絡などの体制をより強化する」と回答した者が多数あった。

○　記載者の本人、家族の別では、「とても満足」と回答した者は家族より本人の方が多く、それ以外の項目では本人より家族の方が多い。

　サービスの利用に際しての要望として、「障害の特性や年齢に合ったきめ細かいサービスの種類を増やす」､「ヘルパーや事業所職員の障害に対する理解や介護技術の向上」､「緊急時の対応や連絡などの体制をより強化する」と回答した者が多数ある。

障害福祉サービスの利用	回答数 （単位：人）	構成比
とても満足している	44	**13.1%**
満足している	164	**48.7%**
不満がある	27	8.0%
とても不満がある	7	2.1%
どちらともいえない	54	16.0%
未回答	41	12.1%
計	337	100.0%

障害福祉サービスの満足度（記載者：本人・家族別）



（介護保険サービスの利用と要介護等認定）

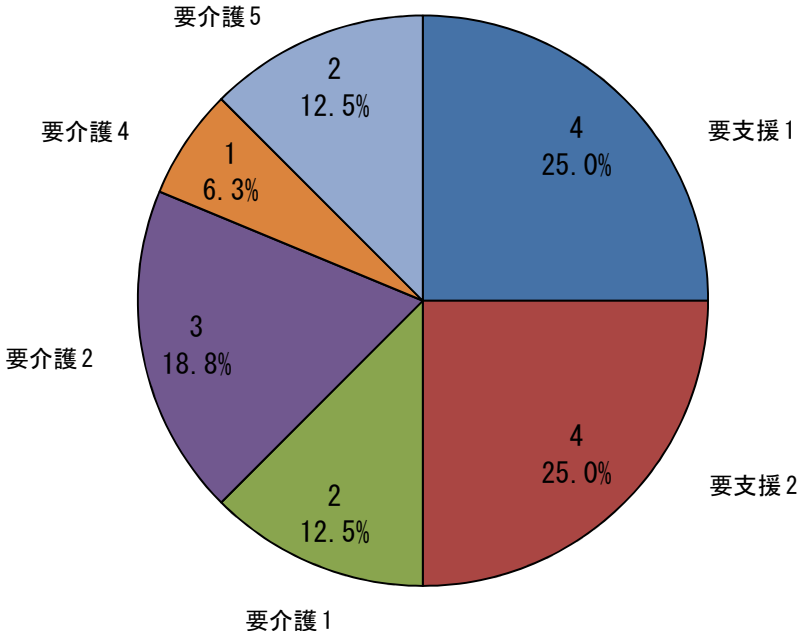
○　介護保険サービスの利用者は 23 人(6.8%)で、65 歳以上と回答した者の 56.1%。利用者のうち、半数以上の者がサービスに概ね満足。

○　介護保険を利用していない理由として、「サービスの内容がよくわからない」、「利用したいサービスがない」、「介護保険サービスを使うと、障害福祉サービスが使えなくなると聞いた」と回答した者が多かった。

（療育手帳と要介護認定）

○　療育手帳の重度者が要介護認定を受けると軽度者として判定される傾向にある。

療育手帳重度者（16人）の要介護等認定状況



２　課題と対応の方向性

障害福祉サービスについて、職員の確保とサービスの質の向上が求められる。
また、緊急時や行動障害のある者、医療的ケアを要する者等のサービスの利用が困難との課題もある。
高齢障害者について、介護保険サービスと障害福祉サービスの併用に際して必要なサービス量が確保されるよう、本人の意向等を踏まえ、切れ目のない支援が確保される必要がある。特に高齢化に伴い在宅生活ではより多くの福祉サービスが必要となるが、要介護認定が低く判定される等によってサービス支給量が減少することのないような取り組みが必要である。

ア　障害福祉サービスの担い手の確保

○　サービスの担い手不足は深刻な課題となっている。介護人材の安定的確保ができるような取り組みが必要であり、そのためには報酬単価の見直しによる一般労働者並の賃金の支給や事業者の経営基盤の強化を図る必要がある。

○　相談支援専門員、サービス管理責任者等の福祉人材の計画的な養成を引き続き取り組むことが必要である。

イ　障害福祉事業者の質の向上とサービスの円滑な利用

○　事業者の質の向上は喫緊の課題であり、各種研修会や実地指導・集団指導においてきめ細やかな指導を行う。また、サービスの円滑な利用が図られるよう第５期障害福祉計画に基づき、着実に基盤整備を進める。
　特に医療的ケアを要する者の短期入所事業所が不足している実情から今後の対応策を検討することが必要である。

ウ　障害福祉制度と介護保険制度の相互理解

○　障害福祉サービスと介護保険サービスについての理解が支援者には必要であり、相談支援専門員・介護支援専門員等を対象に研修を実施する必要がある。特に 65 歳になり介護保険サービスを利用することとなった場合、介護支援専門員が主体となってサービスの利用調整等を行うが、必要に応じて相談支援専門員が関われる機会を確保することが必要であり、研修等の機会を通じて伝えることが大切である。

○　介護保険サービス従事者に対する障害特性の理解、障害福祉サービス従事者に対する高齢者理解による介護技術の向上を図るため、現場の直接処遇職員を対象に相互理解に向けた研修を行う必要がある。

○　支給決定事務に従事する市町職員においても制度の理念･趣旨の理解は必要なため、行政職員向けに県介護保険制度担当課と連携した研修会を実施する必要がある。

エ　医療機関における障害理解の促進

○　医療機関での受診を断られる、医師や看護師等とのコミュニケーションが困難といった課題がある。一方、診療科によっては受診に何ら問題なく受け入れが行われている場合もある。医師等、医療機関職員における障害特性を知る機会が必要である（現在、医師会等と連携し研修を実施しており、今後も継続的に実施する必要がある）。

＜論点４　将来の不安・理想（親の加齢・親亡き後）＞

１　調査結果の概要

（将来に対する不安（障害者本人））

○　「自分を支えてくれる人が病気になったり、いなくなったりするのではないか」と回答した者が最も多く、次いで「生活に必要な収入が将来も得られるか心配だ」、「はっきりとしないが何となく将来が不安である」、「今住んでいるところに住み続けることができなくなるのではないか」となっている。親によって全面的に支えられてきた日常生活上の細やかな支援がなくなることに対する不安、親においては自らの高齢化等により本人の自律した将来像が描けないことに対する不安がある。

（単位：人）

障害者本人の将来の不安	回答数（複数回答）
生活に必要な収入が将来も得られるか心配だ	135
障害が重くなりこれまでのような生活ができなくなるのではないか	64
大きな病気をしたり、事故にあったりするのではないか	92
人にだまされたり、犯罪に巻き込まれたりするのではないか	42
自分を支えてくれる人が病気になったり、いなくなったりするのではないか	221
今住んでいるところに住み続けることができなくなるのではないか	103
自分に必要なサービスが使えなくなるのではないか	18
はっきりとしないが何となく将来が不安である	109
特に不安を感じることはない	21
その他	11

※その他の内容：「わからない」、「親亡き後の生活」、「支給されている年金だけで生活できるか」等

（将来に対する不安（親））

○　自らが高齢化し世話ができなくなったとき、或いは親亡き後を危惧する意見がほとんどである。

（親がもつ将来の不安）（抜粋）

○　親子供に高齢化になっている。障害を持つ子供の親亡き後の暮らしを考えると、非常に心配。まず安心して暮らせる場を確保できる制度の確立を強く望む。

○　GH が近い将来利用できるのか。親が元気なうちに GH を利用し、子どもが安定している状態を見たい。

○　急病で頼れる所もなく無理をして世話をすることで今後への不安がどうしようもなく広がった。ショートステイの緊急枠がもっと使いやすいものであって欲しい。施設と事業所やホームなどの連携が薄く、各々への連絡にも時間が掛かり、急を要する時に親以外が施設等を手配することは難しいと思う。

○　高齢者になってくると、いつまで今の生活がつづけられるか不安。本人にいつまで寄り添っていけるかも不安。親亡き後の事も心配はつきない。ショートステイ・グループホーム・入所施設等、必要な時に使う事が出来るような政策を願う。

○　親亡き後、どうすれば子どもの将来を安心して託せることができるのか不安。

○　子どもより親の将来が子どもに与える影響を考えるととても不安である。

（将来の生活（障害者本人））

○　「これからも自宅で、家族中心に介護をうけながら生活したい」と回答した者が最も多く、次いで「これからも自宅で、居宅サービスなどを使いながら生活したい」となっている。一方、「将来的にはグループホームで生活をしたい」、「将来的には手厚いケアを受けられる施設等に入所したい」と施設等を希望する者も 31.2%いる。

（介護をする上での現在の悩み（介護者））

○　「自分が高齢で介護できなくなったときのことなど、将来が不安である」と回答した者が最も多く、次いで「病気や用事などで急に介護ができなくなったときに、助けてくれる人がいない」、「身体的な負担が大きい」となっている。「特に不安はない」と回答した者は少ない。

２　課題と対応の方向性

障害者本人の日常生活は外部のサポート資源を利用せず、長期にわたり親（家族）により全面的に支えられていることも多いため、親の疾病や死亡による親子関係の破綻は直接本人の生活に影響しかねない。そのため、親亡き後等の生活課題に対応するためには、本人が希望する住み慣れた住まいを主に生活を継続できるような、支援機能の充実が必要となる。

一方、親においては本人の将来の生活という不安を相談できるサポート体制の整備とケアの限界を超えたときのセーフティネットとしての生活の場の確保が必要となる。

ア　親に対する支援

○　障害者本人と親とは共依存の関係にあることも多い。親の支援力の低下は本人の生活に影響する面が大きいため、親支援を目的としたレスパイトサービスの創設や相談支援体制の充実を図ることが大切である。そのためには、福祉サービスに限らず支援機能を担う仕組みを今後検討することが必要である。

イ　住み慣れた住まいでの生活が継続できるよう福祉的支援の充実（再掲「住まい」）
ウ　多様な住まい方が選択できる基盤の整備（再掲「住まい」）
エ　地域における相談支援体制等の整備（再掲「日常生活・社会参加」）
オ　障害福祉事業者の質の向上とサービスの円滑な利用（再掲「医療・福祉サービスの利用」）

Ⅱ　障害者生活実態調査

【調査の視点】

「親亡き後」の不安として、住まいや医療ケアなどを確保できるかどうかという個別具体的な不安以外に、「日常生活上の細やかな支援」にかかわるような生活全般に対する「漫然とした不安」を明らかにし、現に必要となる支援や将来に備えて対応すべき基本事項を調査する。

調査項目	視　　点
住まいに関すること	○　現在の住まいと同居家族の状況を踏まえ、将来暮らしたい場所やそのために必要となる支援を把握する。また、現在の住居に住み続けることへの不安や課題を知る。
日常生活と社会参加（地域との関わり）	○　現在の生活実態と生活に対する不安（不満）や楽しみ・生きがいについて調査する。また、本人が感じる自立した暮らしについての意識や生活上の介助者等の状況や支援の実情を調査する。 ○　親等の同居者以外の者との交流や近隣との関係、外出の頻度を調査し、障害者本人の社会参加や地域との関わりの実態を把握する。
医療・福祉サービスの利用	○　障害支援区分とサービスの利用状況、サービスを利用したことによる介護者の生活の変化や現状の満足度を調査する。加えて、サービスを利用しやすくするために必要と思うこと、また将来地域での生活を継続する上で必要と感じるサービスを調査する。 ○　医療機関受診時の課題を把握する。 ○　介護保険サービスを利用する上で課題と認識していることを把握する。
将来の不安・理想（親の加齢・親亡き後）	○　障害者本人、介護者の将来に対する不安や希望を調査する。 ○　介助者に対して生活状況の変化や介助をする上での悩みを調査する。

【調査対象者等】

- **調査対象者**

  県内に居住する知的障害者（療育手帳を所持し障害福祉サービスを利用する者、重複障害者を含む）で、平成29年４月１日時点で年齢が35歳以上の者（障害者総合支援法第５条15項に規定する「共同生活援助」の入居者を除く）。

- **調査基準日**

  平成 29 年４月１日

- **調査方法**

  県内各市町が無作為に抽出した対象者に調査票を配布（35 歳以上 64 歳未満の者、65 歳以上の者の２区分で配布）。

＜調査票の回答状況＞

○　調査票の回収数は、調査対象（回収目標）400 件に対して 337 件となっており、回収率は 84.25%。
○　回答者の男女比は、男性が 56.4%、女性が 43.3%となっている（未記入 1 件(0.3%)を除く）。

1　地域別回答数

（単位：人）

圏　　域	調査対象	回収数	回収率
神　戸（１市）	３０	３０	８４．２５％
阪神南（３市）	５０	２６	
阪神北（４市１町）	４５	４１	
東播磨（３市２町）	４０	４０	
北播磨（５市１町）	５５	４４	
中播磨（１市３町）	３５	３５	
西播磨（４市３町）	５５	５３	
但　馬（３市２町）	４０	３１	
丹　波（２市）	２０	２０	
淡　路（３市）	３０	１７	
計	４００	３３７	

※平成 29 年 7 月 14 日時点
※調査対象（＝回収目標）：政令市：30 人　中核市：20 人　一般市：10 人　町：5 人

2　男女別回答数

（単位：人）

区　分	回答数	構成比
男　性	１９０	５６．４％
女　性	１４６	４３．３％
未回答	１	０．３％
計	３３７	１００．０％

1　障害者の属性

1　調査票記載者

記載者が本人又は家族であるものが全体の 91.7%を占め、施設職員等の外部の者が記載した割合は 7.7%となっている。

（単位：人）

区分	回答数	割合	備考
本人（代筆を含む）	142	**42.4%**	
家族	170	**49.3%**	本人と共に記載を含む
施設職員やヘルパー等のサービス提供者	17	5.0%	
ボランティア	0	0.0%	
その他	6	2.7%	相談支援専門員、市相談員
未回答	2	0.6%	
計	337	100%	

2　調査票記載者の年齢

記載者の年齢は、65 歳未満が 81.6%、65 歳以上が 12.2%となっている（未回答者 21 人(6.2%)を除く）。

（単位：人）

区分	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上 65 歳未満	65 歳以上	未回答	計
回答数	89	126	42	18	41	21	337
	275						
構成比	26.4%	37.4%	12.5%	5.3%	**12.2%**	6.2%	100.0%
	81.6%						

3　障害者手帳の状況

手帳所持者は 337 人中 331 人(98.2%)で、うち療育手帳所持者は 325 人、障害の程度は重度者が 179 人(55.1%)、中度者 111 人(34.1%)、軽度者 35 人(10.8%)となっている。

(1) 障害者手帳の有無

（単位：人）

区分	手帳有	手帳無	未回答	計
回答数	**331**	3	3	337
構成比	**98.2%**	0.9%	0.9%	100.0%

(2) 所持する手帳の種類

（単位：人）

	手帳所持者数	構成比
療育手帳のみ	260	78.6%
療育手帳＋身体障害者手帳	54	16.3%
療育手帳＋精神障害者保健福祉手帳	10	3.0%
療育手帳＋身体障害者手帳＋精神障害者保健福祉手帳	1	0.3%
小計	**325**	98.2%
身体障害者手帳又は精神障害者保健福祉手帳のいずれかのみ	6	1.8%
計	331	100.0%

(3) 所持する手帳の程度

（単位：人）

区分	療育手帳			
	重度	中度	軽度	計
療育手帳のみ	142	90	28	260
身体障害者手帳(1 級)を重複所持	20	2	0	22
身体障害者手帳(2 級)を重複所持	8	7	2	17
身体障害者手帳(3 級以下)を重複所持	8	4	3	15
精神障害者保健福祉手帳(1 級)を重複所持	1	0	0	1
精神障害者保健福祉手帳(2 級)を重複所持	0	5	1	6
精神障害者保健福祉手帳(3 級)を重複所持	0	1	1	2
精神障害者保健福祉手帳(級不明)を重複所持	0	1	0	1
身体障害者手帳(3 級以下)及び精神障害者保健福祉手帳(3 級)を重複所持	0	1	0	1
計	**179** **(55.1%)**	**111** **(34.1%)**	**35** **(10.8%)**	325 (100.0%)

2　住まい

1　現在の住まい・同居家族

○　家族の持ち家に居住する者は 337 人中 203 人(60.2%)で最も多く、次いで自分の持ち家に居住する者 42 人(12.5%)の順になっている。
○　同居家族の状況では、単身生活者が 34 人(10.9%)、同居家族等のある者が 278 人(89.1%)で、同居家族のある者のうち、親のみと同居する者の割合は約半数（154 人(55.3%)）となっている。

(1) 現在の住まい

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
自分の持ち家	42	12.5%	
家族の持ち家	203	60.2%	
借家・民間賃貸住宅	32	9.5%	
社宅・職員寮・寄宿舎等	6	1.8%	
公営住宅	29	8.6%	
小計	312	92.6%	
その他	23	6.8%	障害者支援施設、共同生活援助等
未回答	2	0.6%	
計	337	100.0%	

(2) 同居家族の有無

（単位：人）

区分	単身世帯		同居家族等有	
	回答数	構成比	回答数	構成比
自分の持ち家	11	3.5%	31	9.9%
家族の持ち家	9	2.9%	194	62.2%
借家・民間賃貸住宅	6	1.9%	26	8.3%
社宅・職員寮・寄宿舎等	2	0.7%	4	1.3%
公営住宅	6	1.9%	23	7.4%
計	34	10.9%	278	89.1%

(3) 同居家族の状況

（単位：人）

区分	親のみ		配偶者のみ		左以外(※)	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
自分の持ち家	12	4.3%	4	1.4%	15	5.4%
家族の持ち家	111	39.9%	3	1.1%	80	28.8%
借家・民間賃貸住宅	16	5.7%	1	0.4%	9	3.2%
社宅・職員寮・寄宿舎等	3	1.1%	0	0.0%	1	0.4%
公営住宅	12	4.3%	1	0.4%	10	3.6%
計	154	55.3%	9	3.3%	115	41.4%

※兄弟姉妹、親と兄弟姉妹、

2　将来暮らしたい場所

現在住んでいる住居の形態を問わず、「今住んでいるところに引き続き住みたい」と希望する者の割合が高く(65.9%)、次いでグループホーム(14.8%)、障害者施設(10.3%)の順になっている。

（単位：人）

区分	今住んでいるところ	今住んでいるところを出て賃貸住宅等	グループホーム	障害者施設	その他	未回答	計
自分の持ち家	27 (8.7%)	1 (0.3%)	6 (1.9%)	5 (1.6%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)	42 (13.4%)
家族の持ち家	134 (43.0%)	5 (1.6%)	30 (9.7%)	22 (7.1%)	5 (1.6%)	7 (2.2%)	203 (65.2%)
借家・民間賃貸住宅	18 (5.8%)	2 (0.6%)	6 (1.9%)	4 (1.3%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	32 (10.2%)
社宅・職員寮・寄宿舎等	3 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	6 (1.9%)
公営住宅	23 (7.4%)	0 (0.0%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)	29 (9.3%)
計	205 (65.9%)	8 (2.5%)	46 (14.8%)	32 (10.3%)	12 (3.7%)	9 (2.8%)	312 (100.0%)

※その他の内容：「わからない」、「シェアハウス」等

＜将来暮らしたい場所・理由＞

将来暮らしたい場所	理由（抜粋）
今住んでいるところ	○　慣れているし、一番快適だと思う。 ○　親が元気なうちは一緒に暮らしていきたい。 ○　親が亡くなったら施設で暮らすようになる。 ○　家族と暮らした家である。生まれてから 67 年間住んだところ。近所の方とも知り合いが多く親しい。 ○　自分の家なら何も考えることなく、普通に暮らせて気を使うこともなく自由にできる。 ○　現在住んでいるところは環境もよく、身内も近くにいるので、福祉サービスを受けながら暮らしていきたい。 ○　母親と二人暮らし、二人とも健康なので今の生活を崩したくない。 ○　近くに通所施設有り。兄一家も近くに住んでいるのでこのまま続けていきたい。 ○　住み慣れた住宅で病院も近くにある。買い物も便利。 ○　住みなれている所、安心して暮らせる地域の人の理解がある。今、通所している所にずっと通える。 ○　施設入所した経験があり、嫌だから。 ○　知的障害があるので、環境を変えたくない。 ○　暮らし慣れている所が落ち着く。人間関係も築けている。 ○　今、仕事も生活も充実しているので、このスタイルを崩したくない。1 人で住むにはいろいろ難しい点が多くグループホームも考えている。 ○　デイサービスを受けながら長年住み慣れたところで、まわりに気がねなく過ごしたい。 ○　福祉サービスを利用して家族にも助けてもらい、地域で暮らしたい。 ○　姉たちが時々様子を見に来てくれるので安心。 ○　重度障害者には親のそばしかないと思う。 ○　公営住宅で家賃が安いため、このまま住みたい。 ○　家族と離れて暮らすことは考えられない。 ○　他人の事を気にせずに自分流の生活ができる。 ○　街の中心で買い物や病院、市役所が近い。支援に入ってもらいやすい（支援を受けている施設や事業所が近い）。 ○　持ち家ではないが住み慣れたところなので執着心がある。 ○　生まれてから住み続けた家。どこにも行く気持ちはない。

	○　ホームや施設に入るとなかなか家に帰れない。アパートなどは家賃が高い。住み慣れた場所がいい。 ○　施設へ入りたいが、定員オーバーで入れない。GH は、年金だけでは入居できない。 ○　買い物に行ったりすると、声をかけてくれる人がいる。 ○　不便な場所ですが、元気な間は住み慣れた環境で過ごしたい。また四季折々の自然に恵まれ心が癒やされる。 ○　よそに引っ越したら緊張する。 ○　生活リズムができていて精神的に落ち着ける。 ○　46 歳なので 60 歳まで家で暮らし、60 歳になった時に改めて親、兄弟姉妹と相談して、老人施設に入居する様になると思う。
グループホーム	○　１人で暮らすのは不安なので、お母さんみたいな人や友達と一緒に暮らしたい。 ○　施設では、日常生活に変化が少ないと思われる。 ○　自立したい。 ○　現在、国は入所施設を建設しないし、欠員が出るまで待たなくてはならない状態。重度の方でも対応してくれるグループホームもできているので。 ○　子どもの実態を分かってくれている場所に預けたい。 ○　GH に入居しながら今通っている施設に通わせたい。 ○　できるだけ家庭的な雰囲気の中で暮らしたい。 ○　親は高齢になり、いずれは一人になる。兄弟はいるが一緒に暮らすのは難しいため、GH で新しい家族として生活するのもいいかなと思う。 ○　自力での生活に不安ですが、友達や仲間とのおしゃべりや食事を一緒にとれるグループホームのような生活でならやっていけると思う。 ○　知的障害のある仲間が好きで、言葉をかわすことは少ないがしぐさや、行動で笑ったり仲間がいると安心しています。ショートステイも大好き。親が世話をできなくなる前に新しい住まいに慣れていきたい。 ○　お金にルーズなので、GH のほうが安心して過ごせると思う。 ○　今住んでいるところに近いところでグループホームがあれば、知っている人達がいる町で暮らせる。 ○　親が元気な時に本人が喜ぶ所を見つけて入所させたい。 ○　一人暮らしを続けたいが、年をとると不安なので、支援者が居るところで暮らしたい。

障害者施設	○　現在グループホームで重度の障害者が生活するにはまだまだ支援が足りません（グループホームでの体験あり）。 ○　グループホームの夜間の事が心配。 ○　重度なので、目が届くところが良い。 ○　親が元気な間に終の住家を決めてやりたい。親自身もこの先どのようになるかわからない。 ○　親亡き後、安心、安全が担保されるのは、現状では施設のほか見当たらない。 ○　親亡き後、自立できないので施設にお世話になりたいと思っている。 ○　姉や甥に迷惑をかけたくない。 ○　１人では何も判断できないし、ことばもしゃべれない。身の回りのことなどすべてに手助けがないと生きていけない。 ○　親はいつまでも一緒にはいられない。 ○　親が高齢になると入所施設だと安心。

3　必要な支援

「グループホームを作って欲しい」という意見のほか、「生活支援」や「移動支援」の充実、「24 時間の見守りや介護」、「経済的支援」等がある。

＜主な意見＞

○　グループホームを作ってほしい。
○　食料品及び日用品の買い物、夕食（塩分や脂肪分が少ない）の準備、金銭管理、見守り
○　住む場所の選択ができるようにしてほしい。
○　今住んでいるところの近くで充実した施設ができることを強く望む。
○　ヘルパー支援、移動支援の充実
○　出来るだけ毎日の生活の中で身の回りの必要なことは自分で出来るようにするために、優しく声掛けをするだけの支援。
○　日中活動へ行く場合の送迎サービス。
○　サービス費用の負担軽減。
○　住む環境の整備や福祉サービスの充実。
○　福祉サービスの量を増やして欲しい。
○　経済的な支援。
○　情報の入手や発信手段。
○　相談しやすい窓口、差別等の防止、施設のバリアフリー等。
○　住宅確保、個別支援体制の充実等。
○　GH 入居前に練習する場(体験型 GH)。
○　移動支援の充実。
○　重度障害者が入居できる GH。
○　支援してくれる人が不足。入居する建物に制約があり、確保するのが難しい。
○　介護者の確保と手厚い支援。年金等、生活にゆとりのもてる額を期待。
○　足腰が弱くなったら、ホームの部屋の横に内職的な作業場があればいい。
○　外出時の送迎、付き添い等の生活支援。
○　家事援助、通院等介助。
○　どのような暮らしが合っているか、できるのか、いろいろな場面の体験の場所が必要。
○　高齢になると医療がはなせないので訪問医療もできるＧＨ。
○　重度の身心障害者が安心して暮らせるホーム。
○　ショートステイ（家族の負担軽減、家族の急用時の対応）。
○　今もらっている年金管理。
○　GH に入居したとしても、年金しか収入がないので、その金額で生活していけるよう支援。
○　夜間のサービス。

○　市営や県営住宅に入りやすくして欲しいし、情報がたくさん欲しい。
○　精神的支援、夜間に発作が起こっても緊急に支援してくれる人。
○　生存確認や健康管理、火を使わないでよいようにコンロや給湯器など電気のものに変える補助金制度など。
○　遊びに行くときの付き添い。
○　24 時間の介護と見守り。
○　定期的に市などの福祉担当の方が訪問か電話で問い合わせ。
○　自閉症や発達障害がある人が利用できる施設。
○　忙しいとは思うが、支援をしてくれる人たちがもう少し家族の中に入って話し合いをして欲しい。障害を持っている家族からは「悪いかな」と思って言いたいことも言えない人が多いようです。
○　部屋の中は車椅子で自由に動けること。買い物等にヘルパーがついてきてくれること。お手伝いを男性にしてもらうこと。リハビリもしてもらうこと。緊急のときに病院に通じること。
○　近所づきあいのサポート。
○　自宅以外で生活することのイメージを持つために GH や短期入所の体験利用。
○　買い物を手伝ってほしい。
○　持病があっても退園を強要されない知的障害者施設。

4　現在の住居に住み続けることの課題

現在住んでいる住居について、構造上の課題では、「特に困っていることはない」と回答した者が多い。一方、人間関係での課題では、「将来、親の高齢化などによって自力で生活することに不安がある」と回答した者が多い。

(1)　構造上の課題（複数回答）

（単位：人）

区分	階段や段差等が多い	出入口、廊下等の幅が狭い	トイレ、浴室、台所等が狭い	手すり等の障害を補う設備が少ない	その他	特に困っていることはない	未回答	計
自分の持ち家	8	4	1	4	2	29	3	51
家族の持ち家	26	12	12	14	16	141	14	235
借家・民間賃貸住宅	5	2	5	6	5	18	0	41
社宅・職員寮・寄宿舎等	0	1	1	0	3	3	0	8
公営住宅	6	2	7	5	5	15	0	40
計	45	21	26	29	31	206	17	375

※その他の内容：「老朽化」、「個人の部屋がない」等

(2)　人間関係での課題（複数回答）

（単位：人）

区分	近所に頼れる人がいない、またはほとんどいない	近所の人に障害者であることから無視されたり、避けられたりする	将来、親の高齢化などによって自力で生活することに不安がある	その他	特に困っていることはない	未回答	計
自分の持ち家	14	5	19	1	14	1	54
家族の持ち家	52	3	138	13	47	4	257
借家・民間賃貸住宅	7	1	16	5	9	1	39
社宅・職員寮・寄宿舎等	1	1	3	2	2	0	9
公営住宅	9	4	16	4	5	2	40
計	83	14	192	25	77	8	399

※その他の内容：「現在は知り合いがいるが、だんだんと少なくなり、話しかける人が少なくなっている」、「気の合う人が少ない」、「自分の気分や調子が下がったときに、人間不信に陥る」、「障害があるというだけで偏見を持つ人がいる。親戚も昔は僕が働いていたから頻繁に家に来たが、今は疎遠になり、自分の家族や身近な親戚だけで集まっている。」、「他人が自分のことをどう思っているか、どうみているか気になる」、「他人に自分の意思を伝えにくい」、「困ったときに訴える手段がない」等

3　日常生活・社会参加（地域との関わり）

1　平日（日中）の居場所

平日（日中）の居場所として、「障害者のための通所施設・作業所等」で過ごす者の割合が高く（75.4%）、次いで「自宅で過ごす」（14.2%）となっている。

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
自宅	48	**14.2%**	
障害者のための通所施設・作業所等	254	**75.4%**	
企業・団体	20	5.9%	
その他	14	4.2%	喫茶店、図書館、買物等
未回答	1	0.3%	
計	337	100.0%	

2　今の生活状況（経済的側面）

○　「生活に十分余裕がある」、「生活できる収入はあるが、それほど余裕はない」と回答した者の割合は全体の 56.1%、一方、「生活するのにぎりぎりの収入である」、「生活費が不足しがちである」と回答した者の割合は 40.6%となっている。

○　「生活するのにぎりぎりの収入である」、「生活費が不足しがちである」と回答した者の生活保護制度に関する認知は、「制度をよく知らない」と回答した者の割合が高い。

(1) 生活状況

（単位：人）

区分	回答数	構成比
生活に十分余裕がある	53	15.7%
生活できる収入はあるが、それほど余裕はない	136	40.4%
生活するのにぎりぎりの収入である	85	25.2%
生活費が不足しがちである	52	15.4%
未回答	11	3.3%
計	337	100.0%

(2)生活保護制度の認知

（単位:人）

区分	生活状況	
	生活するのにぎりぎりの収入	生活費が不足しがち
制度は知っているが、頼りたくない、または必要ない	11 (12.9%)	7 (13.5%)
制度は知っているが、自分はもらえないと思う	26 (30.6%)	14 (26.9%)
制度は知っていて使いたいが、市町の窓口に相談したことがない	9 (10.6%)	5 (9.6%)
制度をよく知らない	29 **(34.1%)**	16 **(30.8%)**
未回答	10 (11.8%)	10 (19.2%)
計	85 (100.0%)	52 (100.0%)

3　世帯の主な収入源

世帯の主な収入源では、「自分の年金など」が最も多く（35.9%）、次いで、「家族の年金など」(28.7%)、「家族が働いて得た収入」(22.0%)の順になっている。

（単位：人）

区分	回答数	構成比
自分が働いて得た収入	25	7.4%
家族が働いて得た収入	74	**22.0%**
自分の年金など	121	**35.9%**
家族の年金など	97	**28.7%**
生活保護	11	3.3%
その他	3	0.9%
未回答	6	1.8%
計	337	100.0%

４　今の生活の満足度

今の生活の満足度について、「普通」が最も多い（49.9%）。
「満足している」及び「やや満足している」(29.4%)が、「やや不満がある」及び「とても不満がある」(18.6%)を上回っている。

（単位：人）

区分	回答数	構成比
満足している	58	17.2%
やや満足している	41	12.2%
普通	168	**49.9%**
やや不満がある	47	13.9%
とても不満がある	16	4.7%
未回答	7	2.1%
計	337	100.0%

※不満と感じている理由（主なもの）

○　親の高齢化や経済的な事情により、今の生活をあと何年続けられるか不安
○　スーパーや飲食店（食堂の類）が少ないので、買い物や飲食に不便
○　外出時、障害物が多くて歩きにくい
○　段差や障害物があり歩きにくく、車や自転車が多くて危ない
○　信号の間隔が短く、車や自転車が危ない
○　GH を利用した場合、障害年金では生活していけない
○　親といると、親は家事や他の家族の世話などで自分を相手にしてもらえないので、いつも夜ＤＶＤを見ながら寝てしまう。お風呂は月～土までヘルパーさんが来てくれて入れるが日曜はなし。母が入れるには下肢の可動域がないので難しい。
○　親の都合に合わせて生活している部分が大きい。
○　年金が少ない。身体障害者なので、どうしても車の移動になります。親も年をとっても車は必要です。車を持つにはお金がかかります。保険や車検などすごくいります。収入がなくなってしまったら、自分は動くこともできません。
○　休日の過ごし方が不満。外出したいがなかなかヘルパー利用が難しい。自分の特性など理解してもらえるヘルパーも少ない。専用のヘルパーがいて、楽しく外出したい。

5　今の暮らし（自立度）

本人の自立度については、「あまりそう思わない」又は「まったくそう思わない」と回答した者の割合は 65.1%で、「とてもそう思う」又は「だいたいそう思う」とした者の割合 30.2%を大きく上回っている。

（単位：人）

区分	回答数	構成比
とてもそう思う	18	5.3%
だいたいそう思う	84	24.9%
あまりそう思わない	99	29.4%
まったくそう思わない	120	35.7%
未回答	16	4.7%
計	337	100.0%

6　自立した暮らしの感じ方

自立した暮らしの感じ方については、「親や家族の支援を受けないこと」、「経済的に独立すること」、「自分の人生を自分の意思で決めること」、「障害に関係なく、周りの人たちと交流して暮らすこと」が高い割合を示している。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
親や家族の支援をうけないこと	130
援助者（ヘルパーなど）に頼らないこと	45
経済的に独立すること	102
自分の人生を自分の意思で決めること	106
障害に関係なく、周りの人たちと交流して暮らすこと	113
支援を受ける相手を自分で選択しながら生きること	19
その他	19

※その他の内容

「よくわからない」、「支援を必要としていることを察して欲しい」、「親以外意思疎通が全く図れない」、「知的障害があって親の援助が必要な状態なので、自立した暮らしは難しい」、「ヘルパーの支援を受けながら生活すること」、「一人の人間として扱って欲しい」等

7　日常の楽しみ・生きがい

日常の楽しみ・生きがいについては、「食事をすること」、「テレビをみること」、「通所施設や作業所などで仕事や作業をすること」、「買い物をすること」が高い割合を示している。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
寝ること	132
食事をすること	220
お風呂に入ること	144
買い物をすること	180
仕事をすること	86
通所施設や作業所などで仕事や作業をすること	199
家事や家族の世話をすること	36
農業など、田畑仕事をすること	16
家族との会話など、触れ合いを楽しむこと	124
障害者団体などで活動をすること	27
友達や仲間とのおしゃべりや、一緒に食事をすること	122
旅行すること	112
運動やスポーツをすること	52
読書することや、映画、劇を観ること	48
勉強をすること	14
芸術・創作活動をすること（絵画、版画、陶芸、書道など）	20
囲碁、将棋、カラオケなどをすること	54
テレビを観ること	217
ボランティア活動に参加すること	6
ペットや家畜など、動物の世話をすること	23
植木や花壇、鉢植えなど、植物の世話をすること	20
施設での行事やレクリエーションに参加すること	164
その他	41
楽しみや生きがいがない	11

※その他の内容：「パソコンゲーム」、「音楽を聞く」、「料理をする」、「車の運転、ドライブ」、「支援者とおしゃべりや外出をすること」

8　介助の状況と主な介助者

○　介護の状況では、「一部介助や支援が必要」、「全部介助や支援が必要」と回答した者が全体の 80.1%、介助が必要と回答した者の主な介助者は母親（一部介助：56.1%、全部介助：80.6%）が最も多い。
○　主な介助者の年齢は、60 歳以上の割合が 65%となっている。
○　主な介助者の半数(52.0%)が仕事をしていない。
○　主な介助者不在時の過ごし方では、「他の同居家族が介助することが多い」と回答した者が最も多く、次いで「ショートステイを利用することが多い」、「同居していない家族が介助することが多い」となる一方、介助する者が不在となる者もある。

（1）生活状況　（単位：人）

区分	回答数	構成比
ひとりでできる（介助や支援は不要）	59	17.5%
一部介助や支援が必要	203	**60.2%**
全部介助や支援が必要	67	**19.9%**
未回答	8	2.4%
計	337	100.0%

（2）一部又は全部介助や支援が必要と回答した者の主な介助者　（単位：人）

区分	一部介助や支援が必要		全部介助や支援が必要	
	回答数	構成比	回答数	構成比
母親	114	**56.1%**	54	**80.6%**
父親	9	4.4%	3	4.5%
配偶者	5	2.5%	0	0.0%
子ども	2	1.0%	0	0.0%
祖母	1	0.5%	0	0.0%
祖父	0	0.0%	0	0.0%
兄弟姉妹	25	12.3%	1	1.5%
孫	0	0.0%	0	0.0%
その他	42	20.7%	9	13.4%
未回答	5	2.5%	0	0.0%
計	203	100.0%	67	100.0%

※その他の内容
「介護支援専門員」、「訪問看護師」、「訪問介護員」、「恋人」、「子どもの配偶者」等

(3) 主な介助者の年齢

（単位：人）

区分	回答数	構成比
29 歳以下	1	0.3%
30 歳代	11	3.3%
40 歳代	23	6.8%
50 歳代	22	6.5%
60 歳代	124	**36.8%**
70 歳代	75	22.3%
80 歳以上	20	5.9%
未回答	61	18.1%
計	337	100.0%

(3) 主な介助者の仕事の有無

（単位：人）

区分	回答数	構成比
仕事をしている	112	33.2%
仕事をしていない	175	**52.0%**
未回答	50	14.8%
計	337	100.0%

(4) 主な介助者不在時の過ごし方（複数回答）

（単位：人）

区分	回答数
他の同居家族が介助することが多い	122
同居していない家族が介助することが多い	42
ショートステイを利用することが多い	60
病院を利用することが多い	6
介助者不在となることが多い	35
その他	57

※その他の内容：「訪問介護員が支援」、「親の友人」、「今まで不在のことがなかった」、「自分でする」等

9　困ったときの相談相手

困ったときの相談相手としては、「家族、親戚」が最も多く、次いで「作業所や施設の職員」となっている。一方、「特にない」と回答した者もある。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
家族、親戚	250
同じ障害のある友人、知人	28
障害者ではない友人、知人	11
職場の上司や同僚	23
作業所や施設の職員	174
かかりつけ医	48
市町の障害福祉担当課などの行政機関	44
相談支援専門員	78
その他	24
特にいない	14

※その他の内容：「成年後見人」、「民生委員」、「特別支援学校時の教員」、「所属団体役員」等

10　友達・近隣とのつきあい

○　友達づきあいについて、「ほとんど友達はいない」と回答した者が 32.9%で最も多く、次いで「たまに話をしたり遊んだりする友達がいる」（24.9%）となっている。「友達がいない」と回答した者も 22.6%あった。
○　障害のない人との友達づきあいでは、「自分の障害のことをよく理解してくれる人なら、友達付き合いをしたい」と回答した者が最も多い(42.4%)。
○　近隣とのつきあいに関して、「近所づきあいをほとんどしていない」(30.3%)、「会えば挨拶をする程度である」(29.4%)で全体の半数以上を占めている。

（1）友達づきあい　（単位：人）

区分	回答数	構成比
頼りになる大勢の友達がいる	11	3.3%
頼りになる少数の友達がいる	36	10.7%
たまに話をしたり遊んだりする友達がいる	84	24.9%
ほとんど友達はいない	111	**32.9%**
友達がいない	76	22.6%
未回答	19	5.6%
計	337	100.0%

（2）障害のない人との友達づきあい　（単位：人）

区分	回答数	構成比
障害があってもなくても、趣味や好みの合う人となら友達付き合いをしたい	70	20.8%
自分の障害のことをよく理解してくれる人なら、友達付き合いをしたい	143	**42.4%**
障害のない人とはあまり積極的につきあいたいとは思わない	30	8.9%
その他	55	16.3%
未回答	39	11.6%
計	337	100.0%

※その他の内容：「発語が無いので関わりが難しい」、「自閉症なので、友達を求めていない」、「親以外と全く意思疎通が図れない」、「学齢期に友達はいたが、社会人になると疎遠になった」、「考えていない」、「友達は欲しくない」等

（3）近隣とのつきあい　（単位：人）

区分	回答数	構成比
近所に頼れる人がたくさんいる	16	4.7%
近所に頼れる人が少しいる	41	12.2%
頼れるほど親しくはないが、会えば話をしたりする人がいる	51	15.1%
会えば挨拶をする程度である	99	**29.4%**
近所づきあいをほとんどしていない	102	**30.3%**
その他	17	5.0%
未回答	11	3.3%
計	337	100.0%

※その他の内容：「重度なのでつきあいはできない」、「親を介しての付き合いはあるが、個人的には難しい」等

11　１週間の外出頻度と外出に際しての課題

○　１週間の外出頻度では、「ほぼ毎日外出する」(51.1%)、「１週間に数回程度外出する」(27.3%)となっており、全体の８割程度の者が何らかの外出をしている。「まったく外出しない」と回答した者は2.4%あった。

（1）　１週間の外出頻度　（単位：人）

区分	回答数	構成比
ほぼ毎日外出する	172	**51.1%**
１週間に数回程度外出する	92	**27.3%**
めったに外出しない	47	13.9%
まったく外出しない	8	2.4%
未回答	18	5.3%
計	337	100.0%

(2)　外出に際しての課題

○　特にないが、たまに特異な目で見られることもある
○　階段が多い（本人執筆）。階段を降りるのは大の苦手（母親執筆）。
○　物が言えないので、外出先で困った時に人に助けを求めることができない。
○　お金の計算ができない。地図がよく理解できない。時間をパッと読み取れない。
○　ふりがなが少なく分かりづらい。
○　お金がかかる。
○　段差や障害物があり、歩きづらく、車や自転車が多くて危ない。
○　段差や障害物があって歩きづらく、信号の横断時間が間に合わない。
○　ヘルパーによって対応が違うことが多い。公共交通機関の乗降時に急かされると怖く、利用しづらい。
○　常に親と一緒。外出支援の時間はもらっているが、契約事業所のヘルパーが揃っていないため活用できない。
○　身障者用トイレが少なかったり、身障者用トイレが独立していない。
○　親が高齢なので連れて行ってもらえない。
○　買い物の時、お金の計算ができない。
○　車いすが必要、また、玄関に昇降椅子が必要（これら日常生活用具を申請する場合、現行の補助制度ではいずれか１つしか対象とならず（もう一方の用具を申請したくても３年間は不可）とのこと。制度の改善を望む（せめても１年以内は不可）ぐらいに・・）。

４　医療・福祉サービスの利用

１　障害支援区分の認定と利用するサービス

支援区分２～４の者の割合が高い（43.9%）。利用中のサービスでは、就労継続支援Ｂ型、短期入所（ショートステイ）の利用者が多い。

(1)　障害支援区分

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
障害支援区分１	14	4.2%	
障害支援区分２	53	15.7%	
障害支援区分３	41	12.2%	
障害支援区分４	54	16.0%	
障害支援区分５	31	9.2%	
障害支援区分６	30	8.9%	
認定を受けていない	41	12.2%	
未回答	73	21.6%	
計	337	100.0%	

(2)　利用中の障害福祉サービス（複数回答）

（単位：人）

区分	回答数	区分	回答数
居宅介護	46	就労移行支援	9
重度訪問介護	1	就労継続支援Ａ型	18
行動援護	8	**就労継続支援Ｂ型**	127
重度障害者等包括支援	3	移動支援	73
生活介護	83	地域活動支援センター	16
療養介護	1	日中一時支援	44
短期入所（ｼｮｰﾄｽﾃｲ）	103	相談支援	88
自立訓練（機能訓練）	7	その他	30
自立訓練（生活訓練）	13	サービスは利用していない	23

※その他の内容：「訪問入浴」、「訪問看護」（施設入所、共同生活援助を除く）

2　サービスの満足度と利用に際しての要望

障害福祉サービスの利用について、「とても満足している」(13.1%)又は「満足している」(48.7%)と回答した者は全体の半数以上となっている。一方、サービスの利用に際しての要望として、「障害の特性や年齢に合ったきめ細かいサービスの種類を増やす」、「ヘルパーや事業所職員の障害に対する理解や介護技術の向上」、「緊急時の対応や連絡などの体制をより強化する」と回答した者が多数ある。

(1)　サービスの満足度

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
とても満足している	44	**13.1%**	
満足している	164	**48.7%**	
不満がある	27	8.0%	
とても不満がある	7	2.1%	
どちらともいえない	54	16.0%	
未回答	41	12.1%	
計	337	100.0%	

(2)　サービス利用に際しての要望（複数回答）

（単位：人）

区分	回答数
サービスの時間や量を増やす	55
障害の特性や年齢に合ったきめ細かいサービスの種類を増やす	97
ヘルパーや事業所職員の障害に対する理解や介護技術の向上	96
サービス利用にあたっての相談やケアマネジメントなどの体制を強化する	53
サービスの中の医療面のケアなどをより強化する	49
サービスの中で地域や企業との連携を強化する	29
通所やショートステイなどを利用するときの送迎サービスをより強化する	88
緊急時の対応や連絡などの体制をより強化する	90
利用料金の負担などをより低減する	47
その他	6
特に必要と思うことはない	74

※その他の内容：「受診や余暇活動に対する支援の強化」、「わからない」

(3)　今後必要なサービス（抜粋）

○　グループホーム・ショートステイを利用するときの送迎サービス
○　介護する人のケア
○　夕食の宅配
○　高齢となっても障害サービスを受け、同じような立場の方と共に過ごせる施設
○　障害者家庭の訪問、声掛け
○　グループ外出、調理実習、スポーツが安全にできる場所の確保、健康増進に向けてのサービス、市内のプールに障害者が利用できる場所
○　入院時に徘徊等される方のための見守りの為のサービス（緊急用に）
○　早朝や夜間など１～３時間程度の居場所の確保
○　夜間サービス
○　地域のなかで（顔見知りのあるなかで）高齢者のお茶会に参加できたり、いきいき広場のようなところに参加できたりするシステムづくり
○　医療面のケアの強化
○　施設入所者が休日自宅に戻った時の居宅サービスの利用
○　高齢者のデイサービスのように１日楽しく過ごせる知的障害者向け施設
○　親離れ、子離れをするには、親子とも徐々にというのが必要だと思うので、出来れば訓練する場所が将来自分の住む場所となるような場所の確保

3　医療機関の受診

○　医療機関の受診頻度では月に１～２程度の者の割合が高い。
○　医療機関受診に際する課題として、「特に困っていることはない」と回答した者が多い一方で、「医師や看護師などとのコミュニケーションが難しい」、「治療の内容が理解しにくい」、「医療費の負担が大きい」と回答した者もある。

(1)　サービスの満足度

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
ほとんどかかっていない	98	29.1%	
月に１回ぐらいかかっている	150	**44.5%**	
月に２回ぐらいかかっている	50	**14.8%**	
週に１回ぐらいかかっている	9	2.7%	
週に２～３回かかっている	5	1.5%	
ほとんど毎日かかっている	2	0.6%	
未回答	23	6.8%	
計	337	100.0%	

(2)　医療機関受診に際しての課題（複数回答）

（単位：人）

区分	回答数
通院できる範囲に医療機関がない	30
通院の際の介助の確保が難しい(医療機関から付き添いを求められる)	37
医療機関の構造や設備が使いにくい	4
医療機関の手続きが難しい、分かりにくい	23
医師や看護師などとのコミュニケーションが難しい	61
治療の内容が理解しにくい	45
訪問による医療が受けにくい（往診、訪問看護、訪問リハビリなど）	7
医療機関の都合で、通院や入院を断られる	6
医療費の負担が大きい	42
その他	32
特に困っていることはない	136

※その他の内容：「一人で受診できない」、「入院時の差額ベッド代」、「医療機関への移動手段」、「待ち時間の対応」、「自分で症状を訴えることができない」等

4　介護保険サービスの利用と要介護等認定

○　介護保険サービスの利用者は 23 人(6.8%)で、65 歳以上と回答した者の 56.1%となっている。
○　介護保険サービス利用者のうち、半数以上の者がサービスに概ね満足していると回答している。
○　介護保険サービスを利用していない者の理由としては、「サービスの内容がよくわからない」、「利用したいサービスがない」、「介護保険サービスを使うと、障害福祉サービスが使えなくなると聞いた」と回答した者が多かった。
○　介護度について、回答のあった者のうち、要支援者が全体の半数、さらに要介護 1 及び 2 の者を加えると全体の 8 割強になる。
○　介護度の判定結果については、「特に疑問点や不満はない」と回答した者が最も多い。

(1)　介護保険サービスの利用状況

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
利用している	23	6.8%	
利用していない	279	82.8%	
未回答	35	10.4%	
計	337	100.0%	

(2)　介護保険サービスの満足度

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
サービスに概ね満足している	12	52.2%	
使えるサービスの種類や量が少ない	2	8.7%	
サービスの費用が高い	2	8.7%	
サービスの内容があまり障害者に合っていない	0	0.0%	
その他	1	4.3%	
未回答	6	26.1%	
計	23	100.0%	

(3)　介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）

（単位：人）

区分	回答数
利用したいサービスがない	26
現在の要介護度では利用したいサービスが使えない	5
介護保険サービスを利用するとさらに費用がかかる	6
サービスの内容がよくわからない	44
介護保険サービスを使うと、障害福祉サービスが使えなくなると聞いた	10
要介護認定を受けたが、サービスを利用するつもりはなかった	0
介護保険サービスの対象になっていない	176
未回答	37

(4)　要支援・要介護度

（単位：人）

区分	回答数	構成比	備考
要支援１	4	22.2%	
要支援２	5	27.8%	
要介護１	2	11.1%	
要介護２	4	22.2%	
要介護３	0	0.0%	
要介護４	1	5.6%	
要介護５	2	11.1%	
小計	18	100.0%	
未回答	319	－	
計	**337**	－	

(5)　要支援・要介護度の判定結果（複数回答）

（単位：人）

区分	回答数
思っていたよりも軽い認定結果だった	4
思っていたよりも重い認定結果だった	3
認定に障害の状況があまり反映されていない	2
聞き取り調査をしてくれた人があまり障害について理解していない	3
認定にあたって自分や家族の生活状況があまり反映されていない	3
認定が出るまでに時間がかかる	1
その他	0
特に疑問点や不満はない	8
未回答	3

5　将来の不安・理想（親の加齢・親亡き後）

1　将来に対する不安（障害者本人）

「自分を支えてくれる人が病気になったり、いなくなったりするのではないか」と回答した者が最も多く、次いで「生活に必要な収入が将来も得られるか心配だ」、「はっきりとしないが何となく将来が不安である」、「今住んでいるところに住み続けることができなくなるのではないか」となっている。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
生活に必要な収入が将来も得られるか心配だ	135
障害が重くなりこれまでのような生活ができなくなるのではないか	64
大きな病気をしたり、事故にあったりするのではないか	92
人にだまされたり、犯罪に巻き込まれたりするのではないか	42
自分を支えてくれる人が病気になったり、いなくなったりするのではないか	221
今住んでいるところに住み続けることができなくなるのではないか	103
自分に必要なサービスが使えなくなるのではないか	18
はっきりとしないが何となく将来が不安である	109
特に不安を感じることはない	21
その他	11

※その他の内容：「わからない」、「親亡き後の生活」、「支給されている年金だけで生活できるか」等

2　介護に関する相談相手（障害者本人）

「家族、親戚」と回答した者が最も多く、次いで「作業所や施設の職員」となっている。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
家族、親戚	214
友人、知人	17
作業所や施設の職員	139
かかりつけ医	38
市町の障害福祉担当課などの行政機関	49
相談支援専門員	94
その他	29

※その他の内容：「地域の人」、「後見人」、「相談できない」等

3　将来暮らしたい人（障害者本人）

「親」と回答した者が最も多く、次いで「兄弟姉妹」となっている。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
ひとり	53
配偶者	21
親	154
子	14
兄弟姉妹	85
その他	70

※その他の内容：「友達」、「作業所の仲間」、「恋人」、「グループホームの仲間」等

４　将来の生活（障害者本人）

「これからも自宅で、家族中心に介護をうけながら生活したい」と回答した者が最も多く、次いで「これからも自宅で、居宅サービスなどを使いながら生活したい」となっており、自宅での生活を希望する者が全体の 46.0%となっている。一方、「将来的にはグループホームで生活をしたい」、「将来的には手厚いケアを受けられる施設等に入所したい」と施設等を希望する者も 31.2%いる。

（単位：人）

区分	回答数	構成比
これからも自宅で、家族中心に介護をうけながら生活したい	90	26.7%
これからも自宅で、居宅サービスなどを使いながら生活したい	65	19.3%
将来的には自宅以外でひとり暮らしをするなど、自立した生活をしたい	13	3.9%
将来的にはグループホームで生活をしたい	43	12.8%
将来的には手厚いケアを受けられる施設等に入所したい	62	18.4%
その他	32	9.5%
未回答	32	9.4%
計	337	100.0%

※その他の内容：「今のままがよい」、「グループホームと自宅の両方で生活したい」、「グループホームか入所施設」等

5　介護サービスの利用による生活の変化（介護者）

介護サービスの利用により、「精神的に楽になった」、「時間に余裕ができた」、「身体的に楽になった」と回答した者が多い。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
身体的に楽になった	87
身体的にきつくなった	8
精神的に楽になった	129
精神的にきつくなった	6
時間に余裕ができた	89
時間に余裕がなくなった	4
経済的に余裕ができた	14
経済的に余裕がなくなった	10
その他	23

※その他の内容：「あまり変わらない」、「人との関わりが広がって明るくなった」等

6　介護をする上での現在の悩み（介護者）

「自分が高齢で介護できなくなったときのことなど、将来が不安である」と回答した者が最も多く、次いで「病気や用事などで急に介護ができなくなったときに、助けてくれる人がいない」、「身体的な負担が大きい」となっている。「特に不安はない」と回答した者は少ない。

（単位：人）

区分	回答数（複数回答）
身体的な負担が大きい	51
目を離せないことが多く精神的に疲れる	38
睡眠不足になりがちで疲労がとれない	25
仕事をしたいが介護のためにできない	5
家事や家族の世話が十分にできない	14
近所づきあいや地域活動ができない	8
自分の時間がもてない	14
介護を手伝ってくれる人がいない	26
病気や用事などで急に介護ができなくなったときに助けてくれる人がいない	68
介護の方法がわからない、情報が得られない	7
自立支援サービスなどで使えるサービスが少ない	21
経済的な負担が大きい	25
本人にとってどのような介護サービスが良いのか分からない	41
自分が高齢で介護できなくなったときのことなど、将来が不安である	181
特に不安はない	26

7　介助をする上での将来の不安（介護者）

＜自由記載（主なもの）＞

○　自身が高齢化、病気とこの１～２年で変化があり、グループホームの体験もしましたが、手続きもバスに乗り毎回行く必要があり、この労力で疲れてしまいました。

○　いつまでも親である私が健康でいられたらよいが、この先どうなるか不安である。神戸市手をつなぐ育成会でも「親亡き後のことは、親がある内に」とかけ声をかけて頑張っているところですが、行政におかれましても、どうぞしっかりとした道筋をつけてください。

○　待機児童と同様にすべての障害者達が必要とするグループホームや入所施設を作って、将来安定した生活を送れるようにして欲しい。

○　現在、介護の世界でヘルパー、ガイドヘルパーが何十万人と大きく不足している中で、行政は在宅での生活を言っておられますが、障害者を支援するヘルパーさん達を確保して、在宅生活を送っていけると思っておられるのでしょうか

○　ハードソフト両面での「親亡き後」の施策を切に望む。

○　夫婦ともに高齢になりつつあるので、先が心配です。元気のあるうちに施設などにお世話になりたいが、まだ踏み切れない。本人の妹が一人いるが、頼りにはできないので、先の話はまだしていないが、入所できたとしても、病気や、もしもの時には世話になると思うので、一度はゆっくり話をしてみたいと思っています

○　福祉サービスを適切に無駄なく利用し、本当に役立つ福祉サービスを設計できるかという事です。

○　年と共に介助することが不安になってきているのは事実である。まさしく老障介護へと進行中、介助者は仕事を持っているので、当面両立することとなる。いずれは介助者が他人に交代することになるので、介助者が元気な間に施設入所を強く希望。

○　元気な間に（介助者が）終の住家を決めておいてやりたい。

○　親が亡くなり、妹である私も 66 歳になりました。二人兄妹なので、とても将来に不安があります。

○　将来の不安は、親が最後には子供をおいてあの世に先に旅立たねばならぬことです（子供にとっては禁句）。自分自身の心身の衰えと子供の方も 40 代に入り、私は子供を今から何年見守られるのか、また、子供もいつまで今迄のように過ごしていけるのか、もしもの時はどんなことが起きるのか、父親、私、子供共々、日々３人の健康を祈るばかりです。今は福祉サービスを受けているところで、少しは父親、私、子供もそのような状態になった時の手立てになることを願っております。

○　子供一人では生きていけなく何らかの支援が必要です。何卒きめ細かいご支援をお願い致します。

○　現在は健康面で多少不安はあるものの元気ですので、障害のある息子がいても毎日楽

しく過ごさせておりますが、一人っ子のため、自分たちが病気をしたりしても助けてくれる者はありません。何か事あれば即対応して頂けるような体制があれば親子ともども今少し頑張れると思うのですが・・・

○　自分がこれから高齢になるわけですから、自分の事も出来なくなるので、本人の介助等考えたことがなく、どうしたらいいか不安になります。

○　将来経済的に余裕がなくなったとき、どうすればよいか。

○　生活できるだけのお金をどうするか。子供が、親亡き後、誰に頼って生活するのか。親が動けなくなったら、入所施設へお世話になりたい。今でもたまに朝「大」の失敗をしてくれると、その対応に苦慮するようになりました。若いころは、さっさと動作できていたものがモタモタするようになってきました。

○　親子供に高齢化になっています。障害を持つ子供の親亡き後の暮らしを考えると、非常に心配です。まず安心して暮らせる場を確保できる制度の確立を強く望みます。

○　現時点では両親とも元気ですので、特に不安はないですが、将来的に私が病気になったり、亡くなった時のことを考えると不安はたくさんあります。だからこそ、元気な時に今のシェアハウスの体型からグループホームに移行してやっていけるのか問題点は何なのかを見届けて施設のお母さんたちと話し合って、良い方向にいくよう考えていきたい。自分が年をとって、動けなくなるまで娘を手元に置いておくことはやめようと思っています。

○　本人が福祉サービスを利用することを嫌がり、ほとんど外出は一人の為、いつ他人様に迷惑をかけることがあるかわからない為、帰宅時間が予定より遅いときなど落ち着かず、困ることが多い（特にヘルパーさんとは出掛けることを嫌がります）。
※親以外はほとんど一人で出かけます。

○　親亡き後が心配。GH 不足。安心して地域で過ごせる場所を心から願っている。

○　姉妹には家庭があり頼れない。GH などで１日中パジャマで過ごす子どもを見ると悲しくなる。子どものために何が最善か考えてくれる施設が欲しい。

○　重度障害者が入居できる GH を作って欲しい。本人の年金だけで生活できるようにして欲しい。

○　通所に昼間通えなくなったときどうなるか

○　GH が近い将来利用できるのか。親が元気なうちに GH を利用し、子どもが安定している状態を見たい。

○　急病で頼れる所もなく無理をして世話をすることで今後への不安がどうしようもなく広がった。ショートステイの緊急枠がもっと使いやすいものであって欲しい。施設と事業所やホームなどの連携が薄く、各々への連絡にも時間が掛かり、急を要する時に親以外が施設等を手配することは難しいと思う。支援計画の実施を早急にお願いしたい。

○　お世話になっていた事業所が経営困難で減っていくことが不安。親は預けられたらどこでも良いわけではない。優良な事業所には何とか配慮をお願いしたい。

○　いずれは家を離れて入所施設に入る予定。現在月に２回程度泊まりがある。準備は嫌

がることなく進んで行うが、実際の泊まりの様子を聞くと家とまったく異なる様子。今後どうなるのか不安。自閉的な傾向にあり、理解はしていても頑固。

○　GHでの生活を希望していますが、衣食住と生活介護施設への送迎費等を考えると年金内でまかなうことは難しい。いくら必要なのか知りたい。

○　以前より福祉も良くなってきたから日々頑張っているつもり。しかしいつまで頑張れば良いのか。福祉の現場が良くならないと私たちも安心できない。

○　本人は親と一緒に暮らしたいと思っているようだが、親も年をとってきているので、GHに入れたらいいなと思っている。しかし、ホームにも色々制約があり大変な様子。日本全体が高齢化、障害者も同じ。自分で生活できない障害者のために、国、県、市がもっと目を向けて欲しい。

○　自分の意思の伝達がうまくできないためとても心配。したくないことでもさせられる、外出支援でも行き先を告げられない、決定できない、親は生活を共にしていても十分に意思を汲んでやれない、どうすれば笑顔が見られるのか色々と思案する。他人が急に関わったとして、どこまで受け入れられるのか。

○　本人が進むレールを作ってやらなければ進むことは難しいと思われます。型にはまったら何とか自分で出来るのではと思うのですが、長年親子二人で生活して自由に暮らしているのでどこまで周りとかかわって生活できるか、アルツハイマー的な症状が出るのでは今でも幻覚的な様子ではと思うことがあります。

○　高齢者になってくると、いつまで今の生活がつづけられるか不安です。本人にいつまで寄り添っていけるかも不安があります。親なきあとの事も心配はつきません。ショートステイ・グループホーム・入所施設等、必要な時に使う事が出来るような政策をお願いします。

○　今後親子ともに年を重ねていくことにより、子どもの世話をしていくことがより困難になっていくことが考えられます。また、親亡き後についてもどうすれば子供の将来を安心して託せることができるのか不安です。

○　あまり現在のところ、手間を取られるという事はありませんが、将来、本人が病気になった時、入院などをしたときに誰かが付き添わなければいけない等の事態になると、ずっと付き添ってられるわけではないので、そんなことを考えると少し不安です。

○　親亡きあとについて心配、親戚にも頼めない。

○　今のところサービスを利用していないのでわからない。親亡き後の生活が不安。親としては娘や孫に迷惑をかけたくない。施設で頑張ってほしい

○　年齢と共に、どこまでできるか分からないが、親としてできるだけのことは助けてやりたい。少しずつでも自分でできるようにさせていって、手をかりて生活できるようにしていかなければならない。不安はたくさんある。

○　私達親は２人とも60代前半だが、これから先については常に不安です。片親になった時、両親共いなくなった時、誰に託したらよいのか自分達が元気なうちに子供の将来がどうなるのか見て安心したいです。この先、施設は作らないということやグループホー

ムもできてなく本当に不安です。本人が生まれ育った土地で安心して生きていけることを強く望んでいます。自宅で１人で住むことは全く無理です。

○　親が高齢であるので、将来が不安です。グループホーム、施設に入所して最後までお世話をしていただければと考えています。母もいつかは老人ホームでお世話にならないので一緒に入所できるかなとか不安はいっぱいです。

○　親なき後は、１人では何もできないのでとても心配です。仕事に出る時間が早いので起きてから食事をして家を出るまでの間が決まった時間に出さないといけないので心配。あまり自分の気持ちを出せないのでため込んでしまう。介助者と気の合う人がいるか心配。

○　親の死後を考えると心配。弟が居るが、本人は弟の世話になりたくないといって聞かない。弟の近くに一人暮らしならＯＫと言っている。母親から見たら自分では何もできない娘である。

○　現在施設等見学し検討しているが、どこもいっぱい。今すぐ入居するわけではないが、果たして将来的に入居できるところがあるのかが不安。

○　今は親が２人とも元気で、息子のヘルパーさん役をこなしていますが、年をとり、体力的に衰えていった時は、どのようになるか不安があります。少しずつ将来に向けてできる準備はしてゆきたいです。

○　ヘルパーさん不足が心配。

○　子どもより親の将来が子どもに与える影響を考えるととても不安である。

○　自身の高齢化により、身体的、老化、物忘れが多くなってきてることにより、いつまで子の世話ができるか不安。子どもの年齢を重ねるにつれ、気難しくなってきているため、支援員に託してうまくいくかも不安。

○　高齢化社会と一口に言われ、高齢者は経済的に余裕があると思われているが、決して余裕のある高齢者ばかりではない。親が死んだあと、今の福祉では障害者（特に重度の知的障害者）にとってどのような状況が待っているのか不安。障害のある娘が親よりも１日でも先に死ぬことを願ってしまう。知的障害と全てひとくくりにされてもそのギャップは一通りではない。今の福祉のあり方は、ある程度頭が働く障害者を中心に考えられているが、そのラインからこぼれ落ちている人間のことも考慮して欲しい。

○　自分が高齢になり、将来のことを考えると眠れなくなり、精神的に不安定になり困っている。

○　60 歳も近いというのに、今だに一般企業に就職したいが収まらず、困ったことです。今通っている A 型は給料もあり良いと思うのですが。親の死後、帰る家がなくなるのが不安。経済的にも障害の程度で年金額、医療費の差がありますが、薬が必要な人以外は差がないと思う。自分で外出したり買い物したりと費用が多くかかる。

○　私自身体が悪く、家事をこなすだけで精一杯。父の面倒と兄の面倒を見ている。兄があと２年すれば GH を辞めて家で生活したいというので受け入れている。ただ、気に入らないことがあると大声を出すので、堪える。家で生活したいといっている以上、受け入

れないとしつこくパニックになるので受け入れるしかない。キレると大声を出すので私の動悸がひどくなり、疲れる。普段は優しい兄なので、家出生活する頃には老化で穏やかになってくれればと思う。

○　介護保険に移るときにスムーズにシフトできるようになることが望ましい。サービスを利用して代金が発生すれば、経済的に余裕がなくなるのではないかと心配です。

○　自宅近くに入所施設があるが定員がいっぱいで利用に至っていない。今後利用につながるか心配している。自分自身の高齢化と健康面に不安がある。

○　介助者の高齢、そして親亡き後のことは大変不安。目前になった不安をどうしていけばいいのか…。後見人制度利用等もよく言われるが、本当に信頼できるんかどうか、それも不安。長寿社会で、60 歳で親の介護をしながら子どもの介助をする多重介護が大きな負担になっている。実母、義理母、子、３人の介護をしなければならない。身体的、精神的負担が大きい。70 歳を目前にさまざまなことが大きな不安に感じる。

○　親は年とって車にも乗れなくなり、何処へも連れていけなくなること、運転できなくなること。収入が少なくなってこないか。生活できるのかが心配です。

○　現在入居しているＣＨの生活も病気加療が必要となると退所をよぎなくされる。

○　入院中は病院のお世話になるが、高齢になり退院となり、次に施設入所になった時、はたしてすぐに対応してもらえるかどうか不安があると思われます。

○　自分自身が年齢的にも体力的にも限界になった時にこの子がきちんと生活していけるのかという不安がある。自分と同年代の人達は見かけたりすると声かけなどしてくれるが若い年代となるとなかなか接点もないため、家族がいなくなったらという不安が常にある。

○　今の状態をいつまで続けられるか不安。本人の実態を考えると、GH や施設利用への変化も仕方ないと思う。短期入所の受け入れ事業所がもっと欲しい。

○　親が高齢になってきているので、介助できなくなったときに安心して入れるＧＨを早く作って欲しい。

○　今は母親の私と二人暮らしですが、経済的にも苦しく近い将来、いつ何時私が倒れて動けなくなるか、また、一人残して死んでしまったら・・・等々不安でいっぱいです。嫁いだ姉がおりますが、やはり、その家族との同居は難しいと考えます。
そのようになった時にこの子が安心して暮らせることができるように今からしっかりと計画しておいてやらなければと思いますが、私一人では何もできず不安が募るばかりです。

○　環境がかわり不安になると発作が起こしやすくなります。

○　年と共に体力、気力が衰える。また病気等で心配はつきません。不安はありますが、今を大切に一日でも長く子供と楽しく暮らしたいと願っています。

○　親の高齢等で介護がままならぬとき、数回短期入所をして助かりました。少しずつ慣れてくればよいのですが。今はまだ親も車に乗れますが、乗れなくなったときは送迎バス等があれば助かります。

○　今親子二人で生活していますが、親も高齢のため親亡き後の子供の事が一番心配です。
○　子供が最後まで楽しく暮らせるかそんな場所が有るか、毎日心の中にこの心配があり落ち着けません。
○　サービスを利用し、仕事をしているので、以前より安心しているが、給料をいただいても遊ぶことに使ってしまい、将来、金銭管理をする人がいなくなったときが心配。
○　家族（父母）がいなくなった後の生活、兄弟や親戚には迷惑をかけたくない（それぞれの生活があるから）。
○　年金額を上げてほしい。
○　障害が重度化してきたとき、そして、自分自身も高齢化や病気になった時にどうしていくのか、という大きな不安がある。
○　人にだまされたり、犯罪に巻き込まれたりする。
○　年金や手当てがこれ以上減らないようにして欲しい。高齢になったときや病気になったときに誰が一緒に病院に付き添ってくれるのか。第三者の人との外出支援を希望、また男性のヘルパーが良い。
○　60 歳を超えているので、いつまで介助することができるか不安。
○　親亡き後、現在の生活に近い状態で生活を希望します。助け合いながら楽しく生活ができたらと願っています。
○　障害の特性により、色々な人や場所にこだわりがある。必要なサービスが受けられない。本人が嫌がる。
○　親がいないと自分から何も出来ない。他人とのコミュニケーションがとれない。お金の管理、入出金、支払い、誰に、どこへ、いくら等公的管理をする人の選定をいつするか。
○　高齢の体が段々弱ってきているのでいつまで世話ができるか不安。入院等で困ったとき、通っている施設でお世話になれるか、本人が慣れるように時々泊まりを頼んでいるが不安。
○　自分が高齢なことが全ての不安の素。住宅が古い日本家屋で一人では住みにくい。本人は身体的には健康だが、サービスを受けても一人では無理なことが多く、姉妹もそれぞれ家庭があるので最小限の負担にしたい。
○　70 歳を目前に腰、ひざ等、身体のあちこちが痛く、なんとか頑張って介助しています。この後何年一緒に暮らせるかという不安はあります。
○　今の状態のサービス内容で介助する側が動けなくなり、子供はどこへ行けばいいのか。遠くへやれば子供を預ける場所はあるでしょうが、それは親の望むことではありません。今、車で運転できていても、いつそれさえもできなくなり、愛にもいけないという事も出てきます。
○　障害を持った子も人権もあります。ただ、それが声に出して言えない子です、わが子は親亡き後、どうするか。

参　考

＜障害者の暮らしに関する調査＞

（障害者生活実態調査）

調査票

この調査は、障害のある方で、療育手帳をお持ちの方を対象として行う調査で、今後の障害者福祉施策を改善するための基礎資料を得るために行うものです。お答えいただいた内容については、秘密の保護に万全を期すとともに、統計を作る目的以外には使用しませんので、調査へのご協力をお願いします。

【調査の対象となる方】

- 療育手帳をお持ちの方（療育手帳をお持ちで、他に身体障害者手帳や精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方も対象となります。）
- 年齢が、平成29年４月１日の時点で35歳以上の方

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課

調査票の記入方法等について

○　この調査票は表紙を含めて全部で２３ページ・４２問あります。

○　この調査の対象となる方が世帯員におられる場合は、調査の対象となる方お一人につき１冊ずつ記入し、平成２９年６月１６日（金曜日）までにご提出ください。

○　この調査は、平成２９年４月１日時点の状況に基づいて記入してください。

○　この調査票は、調査の対象となる方ご自身で記入してください。（ご本人のご意見をお聞きしたいので、時間をかけてもできるだけご自身でご記入ください。）

○　ご自身で記入できない方については、ご家族の方、又は介護をしている方、信頼できる友人の方などが記入を手伝ってください。（ご家族の方や介護をしている方などが記入される場合は、ご本人の意見を聞いて記入してください。ご自身で意思表示が困難な場合は、ご家族の方や介護をしている方が本人の意向を汲み取って代わりに記入することができます。）

○　この調査に関して、お尋ねになりたいことがある方は、下記の調査担当窓口までご連絡ください。

【調査担当窓口】 兵庫県障害福祉課

TEL:078－341－7711（内線2969･2966･2970）

FAX:078－362－9105

※ お問い合わせの時間 9:00～12:00 13:00～17:30（平日のみ）

＜事務局処理欄＞

【あなた自身に関する質問です。】

問１　このアンケートに答えているのは誰ですか。<u>あてはまるもの１つに○をつけてください。</u>

１　自分（代筆も含む。）
２　家族
３　施設の職員やサービス提供者（ヘルパーなど）
４　ボランティア
５　その他（　　）

問２　あなたの年齢をお答えください。

歳（平成２９年４月１日の年齢）

問３　あなたの性別をお答えください。あてはまる方に○をつけてください。

１　男性　　２　女性

【障害の手帳に関する質問です。】

問４　障害者に関する手帳をお持ちですか。あてはまる方に○をつけてください。

１　もっている　→（○問４－（１）へお進みください）

２　もっていない→（●問４－（５）へお進みください）

○問４－（１）　（障害者に関する手帳をもっている方）お持ちの手帳の種類はどれですか。もっているものすべてに○をつけてください。

１　身体障害者手帳　→　（☆問４－（２）へお進みください）

２　療育手帳　→　（★問４－（３）へお進みください）

３　精神障害者保健福祉手帳　→　（◎問４－（４）へお進みください）

☆問４－（２）　（身体障害者手帳をもっている方）身体障害の種類と等級はどのように認定されていますか。身体障害者手帳に記載されている障害の程度（１級、２級など）をお答えください。

★問４－（３）　（療育手帳をもっている方）知的障害の程度はどのように判定されていますか。療育手帳に記載されている障害の程度（Ａ、Ｂなど）をお答えください。

◎問４－（４）　（精神障害者保健福祉手帳をもっている方）精神障害の等級はどのように判定されていますか。精神障害者保健福祉手帳に記載されている障害の程度（１級、２級など）をお答えください。

●問４－（５）　（障害者に関する手帳をもっていない方）障害者に関する手帳をもっていない理由は何ですか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

１　障害の種類や程度が手帳の基準にあてはまらない。
２　手帳の制度や取得の手続きがわからない。
３　特に手帳がなくても困らない。
４　手帳を持ちたくない。
５　その他（　　）

【あなたの住まいについての質問です。】

問５　あなたのお住まいの種類をお答えください。あてはまるもの１つに○をつけてください。

１　自分の持ち家（分譲マンションを含む。）
２　家族の持ち家（分譲マンションを含む。）
３　借家・民間賃貸住宅（賃貸アパート、マンション）
４　社宅・職員寮・寄宿舎などの従業員宿舎
５　公営住宅
６　その他（　　）

問６　あなたは誰と一緒に暮らしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

１　ひとり
２　配偶者
３　親
４　子
５　兄弟姉妹
６　その他

問７　あなたは今後、どのように暮らしたいと考えていますか。<u>あてはまるもの１つに〇をつけてください。</u>

１　今住んでいるところで暮らし続けたい
２　今住んでいるところを出て、賃貸住宅などで暮らしたい
３　グループホームに入居したい
４　施設で暮らしたい
５　その他（　　）

問７－（１）　問７の選択肢を選ばれた理由を自由に書いてください。

問８　今後、問７のように暮らしていくために必要だと思う支援を自由に書いてください。

問９　あなたの今のお住まいに住み続ける上で、困っている点はありますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

＜１＞家の造りに関するもの

１　階段や段差などが多い

２　出入口、廊下などの幅がせまく、動きにくい

３　トイレ、浴室、台所などのスペースがせまく、使いにくい

４　手すりなど、障害を補う設備が少ない

５　その他（　　）

６　特に困っていることはない

＜２＞人間関係に関するもの

１　近所に頼れる人がいない、または、ほとんどいない

２　近所の人に障害者であることから無視されたり、避けられたりする

３　将来、親の高齢化などによって自力で生活することに不安がある

４　その他（　　）

５　特に困っていることはない

【日常生活と社会参加に関する質問です。】

問10　平日の日中は主にどこで過ごしていますか。最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

１　自宅

２　障害者のための通所施設、作業所など（就労継続支援を含む）

３　企業、団体など

４　その他（　　）

問11　あなたの今の生活の状況に一番近いもの１つに○をつけてください。

１　生活に十分余裕がある
２　生活できる収入はあるが、それほど余裕はない
３　生活するのにぎりぎりの収入である（※問11-（１）へお進みください）
４　生活費が不足しがちである（※問11-（１）へお進みください）

※問11－（１）　あなたは生活保護制度について知っていますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。

１　制度は知っているが、頼りたくない、または必要ない
２　制度は知っているが、自分はもらえないと思う
３　制度は知っていて使いたいが、市町の窓口に相談したことがない
４　制度をよく知らない

問12　あなたの世帯の主な収入源にあてはまるもの１つに○をつけてください。

１　自分が働いて得た収入
２　家族が働いて得た収入
３　自分の年金など
４　家族の年金など
５　生活保護
６　その他（　　）

問13　あなたは今の生活の状況に対してどう思いますか。一番近いものに１つ○をつけてください。

１　満足している
２　やや満足している
３　普通
４　やや不満がある（☆問13－（１）へお進みください）
５　とても不満がある（☆問13－（１）へお進みください）

☆問13-（１）不満と感じていることを自由に書いてください。

問14　あなたは今、自立した暮らしができていると思いますか。<u>あてはまるもの１つに○をつけてください。</u>

１　とてもそう思う
２　だいたいそう思う
３　あまりそう思わない
４　まったくそう思わない

問15　あなたの思う、「自立した暮らし」とはどういうことですか。<u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u>

１　親や家族の支援をうけないこと
２　援助者（ヘルパーなど）に頼らないこと
３　経済的に独立すること
４　自分の人生を自分の意思で決めること
５　障害に関係なく、周りの人たちと交流して暮らすこと
６　支援を受ける相手を自分で選択しながら生きること
７　その他（　　）

問16　あなたの日常の楽しみや生きがいは何ですか。<u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u>

1　寝ること
2　食事をすること
3　お風呂に入ること
4　買い物をすること
5　仕事をすること
6　通所施設や作業所などで仕事や作業をすること
7　家事や家族の世話をすること
8　農業など、田畑仕事をすること
9　家族との会話など、触れ合いを楽しむこと
10　障害者団体などで活動をすること
11　友達や仲間とのおしゃべりや、一緒に食事をすること
12　旅行すること
13　運動やスポーツをすること
14　読書することや、映画、劇を観ること
15　勉強をすること
16　芸術・創作活動をすること（絵画、版画、陶芸、書道など）
17　囲碁、将棋、カラオケなどをすること
18　テレビを観ること
19　ボランティア活動に参加すること
20　ペットや家畜など、動物の世話をすること
21　植木や花壇、鉢植えなど、植物の世話をすること
22　施設での行事やレクリエーションに参加すること
23　その他（　　）
24　楽しみや生きがいがない

問17　あなたが日常生活を送る上での家事や身の回りの介助の状況について、最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

１　ひとりでできる（介助や支援は不要）
２　一部介助や支援が必要（●問17－（１）へお進みください）
３　全部介助や支援が必要（●問17－（１）へお進みください）

●問 17-（１）（一部介助や支援が必要な方、全部介助や支援が必要な方）主な介助者は誰ですか。最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

１　母親
２　父親
３　配偶者
４　子ども
５　祖母
６　祖父
７　兄弟姉妹
８　孫
９　その他（　　）

問18　あなたの主な介助者の年齢にあてはまるもの１つに○をつけてください。

１　29歳以下
２　30歳代
３　40歳代
４　50歳代
５　60歳代
６　70歳代
７　80歳以上

問19　あなたの主な介助者は仕事をしていますか、していませんか。<u>あてはまる方に○をつけてください。</u>

1　仕事をしている
2　仕事をしていない

問20　あなたの主な介助者が介助できないとき、どのようにしていますか。<u>あてはまるものにすべてに○をつけてください。</u>

1　他の同居家族が介助することが多い
2　同居していない家族が介助することが多い
3　ショートステイを利用することが多い
4　病院を利用することが多い
5　介助者不在となることが多い
6　その他（　　）

問 21　あなたが困ったときの相談相手は誰ですか。<u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u>

1　家族、親戚
2　同じ障害のある友人、知人
3　障害者ではない友人、知人
4　職場の上司や同僚
5　作業所や施設の職員
6　かかりつけ医
7　市町の障害福祉担当課などの行政機関
8　相談支援専門員
9　その他（　　）
10　特にいない

問22　あなたの友達付き合いに関して、一番近いもの１つに○をつけてください。

1　頼りになる大勢の友達がいる
2　頼りになる少数の友達がいる
3　たまに話をしたり遊んだりする友達がいる
4　ほとんど友達はいない
5　友達がいない

問23　障害のない人との友達付き合いに対して、あなたはどう考えていますか。一番近いもの１つに○をつけてください。

1　障害があってもなくても、趣味や好みの合う人となら友達付き合いをしたい
2　自分の障害のことをよく理解してくれる人なら、友達付き合いをしたい
3　障害のない人とはあまり積極的につきあいたいとは思わない
4　その他（　　）

問24　あなたの近所づきあいに関して、一番近いもの１つに○をつけてください。

1　近所に頼れる人がたくさんいる
2　近所に頼れる人が少しいる
3　頼れるほど親しくはないが、会えば話をしたりする人がいる
4　会えば挨拶をする程度である
5　近所づきあいをほとんどしていない
6　その他（　　）

問25　あなたは１週間にどれくらい外出しますか。<u>あてはまるもの１つに○をしてください。</u>

１　ほぼ毎日外出する
２　１週間に数回程度外出する
３　めったに外出しない
４　まったく外出しない

問26　あなたが外出するときに困っていることがあれば自由に書いてください。

【福祉サービスの利用に関する質問です。】

問27　障害支援区分の認定を受けていますか。また、認定を受けている方は、障害支援区分はいくつですか。<u>あてはまるもの１つに○をつけてください。</u>

１　認定を受けている
　→現在の障害支援区分（１・２・３・４・５・６）
２　認定を受けていない

問28　現在利用しているサービスをすべて選んで○をつけてください。

1　居宅介護
2　重度訪問介護
3　行動援護
4　重度障害者等包括支援
5　生活介護
6　療養介護
7　短期入所（ショートステイ）
8　自立訓練（機能訓練）
9　自立訓練（生活訓練）
10　就労移行支援
11　就労継続支援　A型
12　就労継続支援　B型
13　移動支援
14　地域活動支援センター
15　日中一時支援
16　相談支援
17　その他（　　）
18　サービスは利用していない

問29　あなたは現在利用しているサービスに満足していますか。一番近いもの１つに○をつけてください。また、不満がある場合はその理由を自由に書いてください。

1　とても満足している
2　満足している
3　不満がある
4　とても不満がある
5　どちらともいえない

不満の理由

問30　サービスを利用しやすくするために必要だと思うことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　サービスの時間や量を増やす
2　障害の特性や年齢に合ったきめ細かいサービスの種類を増やす
3　ヘルパーや事業所職員の障害に対する理解や介護技術の向上
4　サービス利用にあたっての相談やケアマネジメントなどの体制を強化する
5　サービスの中の医療面のケアなどをより強化する
6　サービスの中で地域や企業との連携を強化する
7　通所やショートステイなどを利用するときの送迎サービスをより強化する
8　緊急時の対応や連絡などの体制をより強化する
9　利用料金の負担などをより低減する
10　その他（　　）
11　特に必要と思うことはない

問31　今後あったらいいと思うサービスがあれば自由に書いてください。

問32　あなたはどのくらい医療機関にかかっていますか。<u>もっとも近いもの１つに○をしてください。</u>

※風邪やけがなどの一時的なものを除き、身体的または精神的に具合が悪いために医療機関にかかっている回数をお答えください。

※往診、訪問診療の回数を含みます。

１　ほとんどかかっていない
２　月に１回ぐらいかかっている（◎問32－（１）へお進みください）
３　月に２回ぐらいかかっている（◎問32－（１）へお進みください）
４　週に１回ぐらいかかっている（◎問32－（１）へお進みください）
５　週に２～３回かかっている（◎問32－（１）へお進みください）
６　ほとんど毎日かかっている（◎問32－（１）へお進みください）

◎問32-（１）　どの医療機関にかかっていますか。次の中から選んで○をつけてください。

１　整形外科
２　内科
３　神経科
４　精神科
５　その他（　　）

問33　医療機関を受診する際に困っていることはありますか。<u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u>

1　通院できる範囲に医療機関がない
2　通院の際の介助の確保が難しい（医療機関から付き添いを求められる）
3　医療機関の構造や設備が使いにくい
4　医療機関の手続きが難しい、分かりにくい
5　医師や看護師などとのコミュニケーションが難しい
6　治療の内容が理解しにくい
7　訪問による医療が受けにくい（往診、訪問看護、訪問リハビリなど）
8　医療機関の都合で、通院や入院を断られる
9　医療費の負担が大きい
10　その他（　　）
11　特に困っていることはない

問34　あなたは介護保険法によるサービスを利用していますか。<u>あてはまるもの１つに○をつけてください。</u>

1　利用している（☆問35－（２）（３）（４）へお進みください）
2　利用していない（★問35－（１）へお進みください）

★問35－（１）<u>（介護保険法によるサービスを利用していない方）</u>なぜサービスを利用していないのですか。<u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u>

1　利用したいサービスがない
2　現在の要介護度では利用したいサービスが使えない
3　介護保険サービスを利用するとさらに費用がかかる
4　サービスの内容がよくわからない
5　介護保険サービスを使うと、障害福祉サービスが使えなくなると聞いた
6　要介護認定を受けたが、サービスを利用するつもりはなかった
7　介護保険サービスの対象になっていない

☆問35－（２）（介護保険法によるサービスを利用している方）要介護度はいくつですか。該当する要介護度に○をしてください。

・要支援　１　　・要支援　２

・要介護　１　　・要介護　２　　・要介護　３

・要介護　４　　・要介護　５

☆問35-（３）　要介護・要支援認定の結果を聞いて、あなたはどう思いましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

１　思っていたよりも軽い認定結果だった
２　思っていたよりも重い認定結果だった
３　認定に障害の状況があまり反映されていない
４　聞き取り調査をしてくれた人があまり障害について理解していない
５　認定にあたって自分や家族の生活状況があまり反映されていない
６　認定が出るまでに時間がかかる
７　その他（　　）
８　特に疑問点や不満はない

☆問35-（４）　介護保険サービスについてどう思いますか。一番近いもの１つに○をしてください。

１　サービスに概ね満足している
２　使えるサービスの種類や量が少ない
３　サービスの費用が高い
４　サービスの内容があまり障害者に合っていない
５　その他（　　）

【将来の不安についての質問です。】

問36　あなたは将来に対する不安がありますか。<u>あてはまるもの３つ以内に○をつけてください。</u>

1　生活に必要な収入が将来も得られるか心配だ
2　障害が重くなりこれまでのような生活ができなくなるのではないか
3　大きな病気をしたり、事故にあったりするのではないか
4　人にだまされたり、犯罪に巻き込まれたりするのではないか
5　自分を支えてくれる人が病気になったり、いなくなったりするのではないか
6　今住んでいるところに住み続けることができなくなるのではないか
7　自分に必要なサービスが使えなくなるのではないか
8　はっきりとしないが何となく将来が不安である
9　特に不安を感じることはない
10　その他（　　）

問37　あなたは介護などについて誰に相談していますか。<u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u>

1　家族、親戚
2　友人、知人
3　作業所や施設の職員
4　かかりつけ医
5　市町の障害福祉担当課などの行政機関
6　相談支援専門員
7　その他（　　）

問38　あなたは将来、だれと一緒に暮らしたいと思っていますか。<u>あてはまるものすべてに○をつけてください。</u>

1　ひとり
2　配偶者
3　親
4　子
5　兄弟姉妹
6　その他（　　）

問39　あなたの将来の生活に対して、自分の考えに<u>最もあてはまるもの１つに○をつけてください。</u>

1　これからも自宅で、家族中心に介護をうけながら生活したい
2　これからも自宅で、居宅サービスなどを使いながら生活したい
3　将来的には自宅以外でひとり暮らしをするなど、自立した生活をしたい
4　将来的にはグループホームで生活をしたい
5　将来的には手厚いケアを受けられる施設等に入所したい
6　その他（　　）

これであなたに対する質問は終わりです。
次のページからは、あなたの主な介助者の方に回答していただきます。
介助者がいない場合は回答しなくてかまいません。
ご協力ありがとうございました。

【あなたの主な介助者の方に答えてもらう質問です。】

問40　福祉サービスを利用することで、介助者の方の生活はどのように変化しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　身体的に楽になった　　2　身体的にきつくなった
3　精神的に楽になった　　4　精神的にきつくなった
5　時間に余裕ができた　　6　時間に余裕がなくなった
7　経済的に余裕ができた　　8　経済的に余裕がなくなった
9　その他（　　）

問41　介助をする上で将来に対する不安はありますか。自由に書いてください。

問42　介助をする上で、現時点でどのような悩みがありますか。最もあてはまるもの３つ以内に〇をつけてください。

1　身体的な負担が大きい
2　目を離せないことが多く精神的に疲れる
3　睡眠不足になりがちで疲労がとれない
4　仕事をしたいが介護のためにできない
5　家事や家族の世話が十分にできない
6　近所づきあいや地域活動ができない
7　自分の時間がもてない
8　介護を手伝ってくれる人がいない
9　病気や用事などで急に介護ができなくなったときに、助けてくれる人がいない
10　介護の方法がわからない、情報が得られない
11　自立支援サービスなどで使えるサービスが少ない
12　経済的な負担が大きい
13　本人にとってどのような介護サービスが良いのか分からない
14　自分が高齢で介護できなくなったときのことなど、将来が不安である
15　特に不安はない

調査は以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。

Ⅲ　障害者の暮らし検討委員会

＜障害者の暮らし検討委員会の設置（要綱第１条関係）＞

第１条（設置）　地域に住む障害者が親の高齢化による支援機能の低下や親亡き後、また自らの高齢化等を背景に、住み慣れた地域で自律した生活の継続が危惧されることから、地域に住む障害者に対する生活実態調査を踏まえ、今後の障害福祉施策のあり方等を検討することを目的とした障害者の暮らし検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

＜委員名簿（要綱第３条関係）＞

平成 29 年 12 月現在

氏名（敬称略・五十音順）	団体名・役職
市川　禮子	社会福祉法人きらくえん・名誉理事長
井上三枝子	公益財団法人兵庫県手をつなぐ育成会・理事長
◎ 谷口　泰司	関西福祉大学社会福祉学部教授
西田　充宏	社会福祉法人阪神福祉事業団ななくさ育成園・施設長
濱口　直哉	東播磨圏域コーディネーター
蓬莱　和裕	一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会・会長
三浦久美子	神戸市保健福祉局障害福祉部障害者支援課長

◎は座長。委員会事務局は兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課。

〔委員会の検討経緯と協議内容〕

□第１回（平成 29 年８月３日）
委員会の設置目的と今後の進め方、障害者生活実態調査の結果
調査結果を踏まえた課題等について

□第２回（平成 29 年 10 月５日）
障害者生活実態調査を踏まえた課題と対応の方向性

□第３回（平成 29 年 12 月 27 日）
検討報告の取りまとめ